

平成28年3月4日提出

教育委員会議 議題2 別冊1

広島市スポーツ振興計画の見直し（案）

～ 新しい「スポーツ王国広島」を目指して ～



平成28年(2016年)3月

広島市

【目次】

第1章	計画の策定に当たって	1
1	計画の趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画期間	1
4	計画の見直し	1
第2章	計画策定の背景	3
1	社会環境の変化とスポーツ	3
2	広島市のスポーツの現状	5
3	広島市のスポーツ振興における課題	14
第3章	基本理念とその実現に向けて	15
1	基本理念	15
2	基本方針及び目標年度の数値目標	15
第4章	推進施策	17
1	施策の体系	17
2	施策の内容	18
第5章	計画の推進	32
用語の解説		35
	(本文中の*を付した用語について、五十音順で解説しています。)	
資料編		39

第1章 計画の策定に当たって

1 計画の趣旨

健康増進や体力の向上等に対する市民意識の高揚、広島東洋カープやサンフレッチェ広島に対する応援気運の盛り上がりなどにより、近年、市民のスポーツ・レクリエーションに対する関心が高まっています。

広島市は、これまで第12回アジア競技大会の開催や各種スポーツ施設の整備、市民のスポーツ・レクリエーション活動に対する支援やスポーツ指導者の養成など、様々なスポーツ振興施策の推進を図ってきました。

今後は、子どもから高齢者、障害者（障害児を含む。以下同じ。）や健常者、初心者からトップアスリートまで全ての市民が様々なスポーツに関わり、生きがいを感じることができるよう、多様化する市民のニーズを把握し、市民のスポーツ・レクリエーション活動の促進や競技力の向上、国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致などに取り組む必要があります。

これらの取組をより一層効果的・効率的に推進するため、広島市のスポーツ振興施策を総合的かつ体系的に定める広島市スポーツ振興計画を策定します。

この計画において、スポーツとは、心身の健全な発達を図るために行われる身体活動をいい、競技目的で行われるものだけでなく、楽しみや健康の保持増進のために行われるものも含まれます。

2 計画の位置付け

- (1) この計画は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）に基づく広島市のスポーツ振興に関する計画です。
- (2) この計画を第5次広島市基本計画の部門計画として位置付けます。

3 計画期間

目標年度は平成32年度(2020年度)とし、計画期間は平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までの10年間とします。

4 計画の見直し

この計画は、計画策定から5年が経過し、中間年に当たる平成27年度に、計画の進捗状況の検証、市民意識調査結果の分析及びスポーツを取り巻く環境の変化等を踏まえて見直しを実施するものです。

この計画の見直しは、主に次の視点により行っています。

(1) 健康寿命の延伸の必要性

平成22年の広島市の男性の平均寿命は79.93年、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は69.96年となっており、その差は9.97年となっています。同様に、女性では、14.67年となっています。

なお、全国の平均寿命と健康寿命の差は、男性が9.13年、女性が12.68年となっています。

広島市の平均寿命は、男女ともに全国よりも長く、健康寿命は、男女ともに短くなっており、結果として、広島市の平均寿命と健康寿命の差は、全国よりも大きくなっています。

こうした状況を広く市民に周知し、市民一人一人が、生涯を通じて心身ともに健康で自立した生活を送ることができるよう、スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づける取組が必要となります。

この計画において、既に健康寿命の延伸に寄与する取組を実施していますが、今後は、健康福祉部局等と連携して、日常生活において健康増進につながるラジオ体操の普及・促進や自転車利用の促進を図るなど、これまで以上に健康寿命の延伸につながる取組を効率的かつ効果的に推進します。

表1 平成22年の広島市の平均寿命と健康寿命

区分	男女別	平均寿命(A)	健康寿命(B)	(A) - (B)
広島市	男性	79.93年	69.96年	9.97年
	女性	86.86年	72.19年	14.67年
全国	男性	79.55年	70.42年	9.13年
	女性	86.30年	73.62年	12.68年

資料) 全国の平均寿命は厚生労働省「平成22年完全生命表」
その他は厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」及び
厚生労働省「国民生活基礎調査」を基に算定

(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚

この計画の目標年度が、折りしも、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年に当たることから、同大会の開催を契機として、出場国・地域の事前合宿等の誘致を行い、スポーツに対する市民意識の高揚を図るとともに、同大会終了後も継続的にスポーツに親しむ市民が増加する取組やジュニア選手の競技力向上への意識高揚につながる取組などを積極的に実施し、広島市のスポーツ振興を図ります。

(3) 障害者スポーツの競技力向上

東京2020パラリンピック競技大会を控え、障害者スポーツに対する市民意識が高まっていることから、競技団体等と連携して、国際大会や全国大会などで活躍できる素質・能力のある選手の発掘・育成を推進するとともに、障害者スポーツ指導員の養成や競技団体の組織化など体制整備を図り、競技力向上につながる取組を行います。

なお、平成23年(2011年)3月に策定したこの計画は、既にスポーツ基本法の理念を盛り込んでおり、同法の制定に伴う見直しは文言の変更のみとなっています。

第2章 計画策定の背景

1 社会環境の変化とスポーツ

スポーツは、体力の向上や生活習慣病の予防、精神的なストレスの発散など健康の保持増進に資するとともに、明るく豊かで活気に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与します。

このようなスポーツは、次のような社会環境の変化に対し、様々な役割と効果が期待されます。

(1) 少子化・高齢化の進展

少子化の進展により、平成32年(2020年)には、広島市の年少人口が15万4千人に減少することが予測されており(表2参照)、参加生徒数の減少に伴う学校運動部の小規模化などによる体力や競技力の低下が懸念されています。

こうした中、学校やスポーツ関係団体等が連携し、子どもの体力・運動能力の向上や競技力の向上に取り組むことが期待されています。

また、高齢化の進展により、平成32年(2020年)には、広島市の老年人口が30万7千人に増加することが予測されています(表2参照)。

こうした中、高齢者がスポーツを通じて健康を維持し、生き生きとしたセカンドライフを送ることへの支援が期待されています。

表2 年齢階層別人口

区 分		平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)
年少人口	0~14歳	17.0万人(14.5%)	15.4万人(13.1%)
生産年齢人口	15~64歳	77.5万人(66.0%)	71.8万人(60.9%)
老年人口	65歳以上	23.0万人(19.6%)	30.7万人(26.1%)
総人口		117.5万人(100.0%)	117.9万人(100.0%)

注1 各年の基準は10月1日です。

注2 ()内の数値は構成比です。

注3 表示の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致していないことがあります。

(2) 価値観の多様化

個人の価値観が多様化し、生きがいや様々な社会参加を求める市民が増えています。

こうした中、スポーツを通じて爽快感や楽しさを味わうこと、健康の保持増進、さらにはボランティア活動など様々な目的で市民がスポーツに関わることのできる環境を整えることにより、市民の生きがいづくりや社会参加の機会を創出することが期待されています。

(3) 地域の連帯感の希薄化

都市化の進展などにより、地域におけるコミュニケーションが減少し、地域の連帯感が希薄化しています。

こうした中、日頃行うスポーツや町内運動会等の地域スポーツ活動への参加など様々な場面で地域の幅広い人たちが気軽に参加し、互いに心を通わすことのできる機会を提供することにより、スポーツを通じて地域コミュニティの活性化を図ることが期待されています。

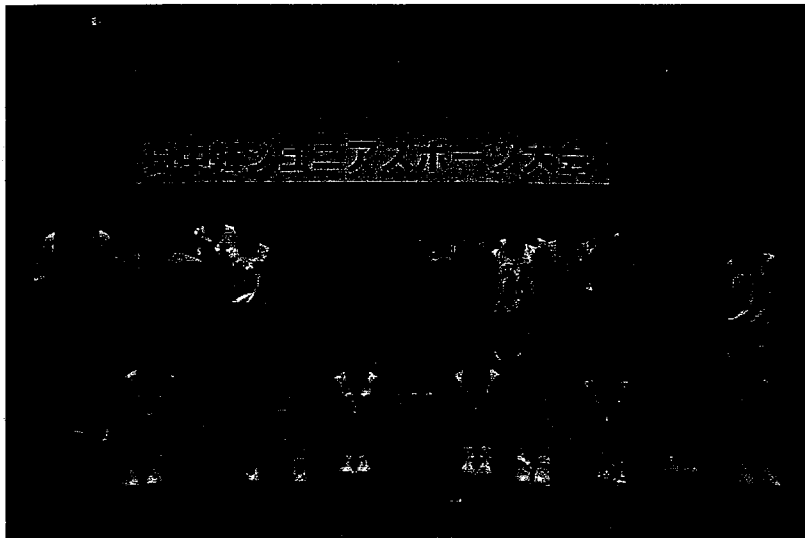


己斐学区町民駅伝大会

(4) 国際化の進展

* ICTの進展や人・物・情報の交流が深化することにより、行政や民間などの団体レベルだけでなく、個人レベルでも多様な国際交流が進んでいます。

こうした中、スポーツを通じて国際的な友好・親善、さらには世界恒久平和の実現に貢献することが期待されています。



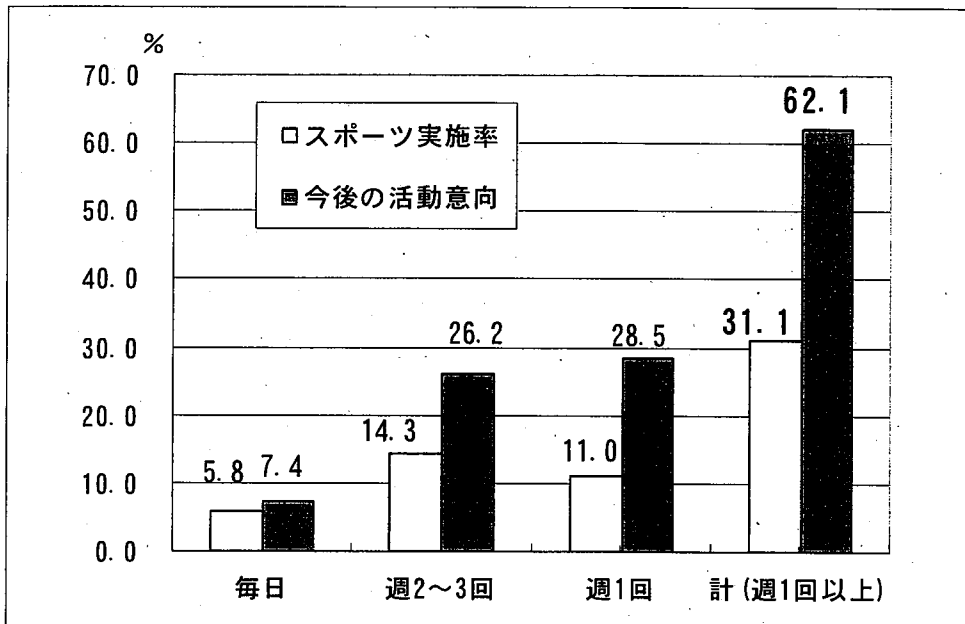
日中韓ジュニアスポーツ大会【平成19年(2007年)4月】

2 広島市のスポーツの現状

(1) 市民のスポーツ実施状況

○ 広島市が平成 21 年度(2009 年度)に 20 歳以上の市民及び市立小・中・高等学校の児童生徒を対象に実施した「スポーツに関する意識調査」(以下「意識調査」という。)では、市民の週 1 回以上のスポーツ実施率が 31.1%、今後の活動意向が 62.1%とその差は 31 ポイントとなっており(図 1)、スポーツをしたいと思っているが、実際にするところまで至っていない人が多い状況にあります。

図 1 市民のスポーツ実施率と今後の活動意向



○ 意識調査では、市民が運動・スポーツをしていない理由として、1 位は「時間がないから」(19.2%)、2 位は「機会がないから」(17.8%) となっており、中には「きらい、苦手」(11.4%) といったスポーツ自体に関心がない人もいるなど、スポーツをしていない理由は多岐にわたっています。

○ 意識調査では、市民が運動・スポーツを行う理由・目的の 1 位が「健康・体力づくりのため」(40.9%) であり、多くの市民が健康づくりや体力づくりに関心を持っています。

○ 意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として市民が大切と答えた割合が高い項目は、1 位が「高齢者、障害者が参加しやすいスポーツ環境の整備」(79.5%)、2 位が「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」(76.4%)、3 位が「運動・スポーツ施設の整備、充実と有効活用」(73.9%) となっており、誰もが気軽に運動・スポーツに親しめる環境が求められています。

さらに、「市民が気軽に参加できるイベントの増加、内容の充実」が大切と答えた市民の割合が 66.0% であり、また、運動・スポーツを「みんなとやりたい」と答えた

市民の割合も 50.4%であるなど、スポーツを通じて人と人がふれあうことのできる機会や場が求められています。

(2) スポーツ施設

- 広島市では、市民のスポーツ活動の場として、スポーツセンターなどスポーツ施設を整備するとともに（表 3）、学校体育施設の開放（平成 21 年度(2009 年度)：小学校 140 校中 138 校、中学校 64 校中 60 校、高等学校 8 校中 1 校）に取り組んできました。

表 3 広島市所管のスポーツ施設（平成 22 年(2010 年) 4 月現在）

区 分	スポーツ施設	公園内のスポーツ施設	その他	計
グラウンド・運動場	・戸坂運動広場等 (24 箇所)	・竜王公園等 (36 箇所)		60 箇所
野球場	・広島市民球場	・寺迫公園野球場等 (5 箇所)		6 箇所
陸上競技場		・広域公園陸上競技場 ・同 補助競技場		2 箇所
球技場	・中央バレーボール場	・広域公園第一球技場 ・同 第二球技場		3 箇所
テニスコート	・中央庭球場等 (11 箇所)	・広域公園テニスコート 等 (30 箇所)		41 箇所
体育館	・スポーツセンター体育室 (10 箇所) ・吉島体育館等 (3 箇所)	・瀬野川運動公園体育室	・心身障害者福祉 センター体育室	15 箇所
プール	・総合屋内プール ・スポーツセンタープール (9 箇所)	・中央公園ファミリープ ール	・心身障害者福祉 センタープール	12 箇所
柔剣道場	・スポーツセンター (2 箇所)			2 箇所
弓道場	・スポーツセンター			1 箇所
トレーニング室	・スポーツセンター (9 箇所) ・クアハウス湯の山トレー ニングルーム			10 箇所
クアハウス	・クアハウス湯の山			1 箇所

- 意識調査では、市民がよく利用するスポーツ施設として、1 位は「プールを含む区スポーツセンター」(20.4%)、2 位は「運動広場・公園、グラウンド」(13.0%)となっています。スポーツセンターは、今後も利用したい施設の 1 位 (27.0%) にもなっており、市民にとって最も身近な地域スポーツの活動拠点となっています。
- スポーツセンター及び総合屋内プール（広島ビッグウェーブ）の利用を促進するため、施設ごとの年間利用者数を増やす目標を掲げ、次のような市民サービスの向上に取り組んでおり、平成 21 年度(2009 年度)については、施設全体の利用者数の目標を 10,182 人上回りました（達成率 100.5%、表 4）。

- ① 8区のスポーツ施設を2グループに分けた休館日の設定
- ② 祝日に係る開館日の拡大や夏季における開館時間の延長
- ③ スポーツに関する指導・助言・相談事業の拡充
- ④ 競技力向上を目的とした練習時間確保のための臨時開館 など

しかしながら、意識調査では、運動・スポーツをする場合に解決してほしいことの1位は「使いやすい施設や場所」(29.1%)となっており、より一層利用者の視点に立った施設運営に努めることが求められています。

表4 スポーツセンター及び総合屋内プール(広島ビッグウェーブ)の利用者数
(平成21年度(2009年度))

区分	目標数値 (A)	実績数値 (B)	差引 (B-A)	達成率 (B÷A)
スポーツセンター	1,770,000人	1,777,137人	7,137人	100.4%
総合屋内プール (広島ビッグウェーブ)	154,000人	157,045人	3,045人	102.0%
計	1,924,000人	1,934,182人	10,182人	100.5%

注1 スポーツセンターの数値は、本館(8箇所)と分館(5箇所)の合計です。

注2 総合屋内プールについて、冬季はスケートリンクとして開館しています。

(3) 運動・スポーツクラブ

○ 意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として「地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり」が大切と答えた市民の割合は76.4%であり、また、学校や地域の運動・スポーツクラブに必要なものとして最も多かったのは「いろいろな種目や楽しみのあるクラブ」(23.1%)となっており、地域で気軽に参加できる運動・スポーツクラブが求められています。

○ 身近なスポーツクラブの一つに小学校区単位で組織された学区体育協会がありますが、そのクラブ・同好会に加入している人の割合は全市人口の2.7%に過ぎず、学区体育協会が主催する行事への参加率も17.0%と多くの人に参加しているとは言えない状況となっています(表5)。

表5 学区体育協会の活動状況(平成21年度(2009年度))

団体数	136団体	
活動内容	クラブ・同好会活動	バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ソフトテニス、ゲートボール、剣道 ほか
	スポーツ・レクリエーション行事等開催	町民体育祭・運動会、各種球技大会 ほか
	スポーツイベントへの協力	スポーツ・レクリエーションフェスティバル、区民スポーツ大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 ほか
住民参加状況	クラブ・同好会加入率 2.7% (クラブ・同好会加入者数の全学区合計÷広島市人口) 主催行事参加率 17.0% (延べ主催行事参加者数の全学区合計÷広島市人口) ※広島市人口は、平成22年(2010年)3月末現在である。	

資料)平成21年度学区体育団体スポーツ振興事業実績報告書

(4) スポーツを支える人材

○ 地域におけるスポーツを支える人材として、広島市ではスポーツ基本法に基づき、スポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言、スポーツ行事等への協力等を行うスポーツ推進委員（旧体育指導委員）を小学校区に配置しています（平成22年(2010年)4月1日現在：389人（定数404人））。

○ 意識調査では、スポーツ推進委員の認知度は43.3%ですが、運動・スポーツの指導をしてもらうことが多い人として「スポーツ推進委員」と答えた市民の割合は4.0%となっており、スポーツ推進委員に関する情報の不足などにより市民が気軽にスポーツ推進委員を活用するまでに至っていない状況がうかがえます。

また、積極的に活動しているスポーツ推進委員がいる一方で、1か月の平均活動日数が4日以下のスポーツ推進委員が31.2%となっており、活動日数に差があります（表6）。

表6 スポーツ推進委員の活動状況（平成21年度(2009年度)）

1か月の平均活動日数	人数（割合）
15日以上（週3回以上）	19人（4.9%）
10日～14日（週2回以上）	59人（15.1%）
5日～9日（週1回以上）	191人（48.8%）
0日～4日	122人（31.2%）
計	391人（100.0%）

○ 地域におけるスポーツ指導やスポーツイベントの運営協力などスポーツを支える人材として重要な役割を担っているのがボランティアの存在です。

意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として「*スポーツイベントボランティアの育成、支援」が大切と答えた市民の割合は60.4%であり、また、22.3%の市民が運動・スポーツに関するボランティア活動をしたいと答えています。

一方、実際に運動・スポーツに関するボランティア活動をした市民の割合は6.0%と少ない状況であり、ボランティア活動に対する市民の意識は高いものの、実際に活動するまでに至っていない状況です。

(5) 子どもの体力・運動能力

○ 広島市では、学校における*D○スポーツ体育指導者招へい事業や運動部活動への外部指導者の招へいなどを通して、子どもがスポーツの楽しさを味わうことにより自発的にスポーツに親しむことができるよう取り組んでいます。

また、地域における子どものスポーツ活動の機会を増やすため、広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟の活動促進に取り組んでいます。

○ 意識調査では、62.9%の児童生徒が運動・スポーツを「するのもみるのも好き」と答えており、運動・スポーツへの関心は高いものの、*新体力テストの結果を見ると、表7のとおり、平成21年度(2009年度)の広島市の平均値が平成20年度(2008

年度)の全国の値以上となった種目の割合は、小学校で 24.0%(23/96 種目)、中学校で 29.6%(16/54 種目)、高等学校で 59.3%(32/54 種目)と小学生及び中学生の体力が全国平均レベルを大きく下回っています。

表7 *新体力テストの結果において、平成 21 年度(2009 年度)の広島市の平均値が平成 20 年度(2008 年度)の全国の値以上となった種目の割合(男女計)

	年齢(学年)	割合(種目数)		年齢(学年)	割合(種目数)
市立小学校	6歳(1年生)	6.3%(1/16種目)	市立中学校	12歳(1年生)	22.2%(4/18種目)
	7歳(2年生)	25.0%(4/16種目)		13歳(2年生)	44.4%(8/18種目)
	8歳(3年生)	6.3%(1/16種目)		14歳(3年生)	22.2%(4/18種目)
	9歳(4年生)	25.0%(4/16種目)		計	29.6%(16/54種目)
	10歳(5年生)	56.3%(9/16種目)	市立高等学校	15歳(1年生)	50.0%(9/18種目)
	11歳(6年生)	25.0%(4/16種目)		16歳(2年生)	61.1%(11/18種目)
	計	24.0%(23/96種目)		17歳(3年生)	66.7%(12/18種目)
			計	59.3%(32/54種目)	

(6) スポーツの競技力

- 広島市の競技力が向上して地元出身のスポーツ選手が全国規模の大会で活躍することは、市民に夢と感動を与えます。

広島市では、競技団体と学校運動部等の連携による素質・能力のあるジュニア選手の発掘、強化合宿の開催や遠征、さらには指導者の養成等により、ジュニア選手の育成・強化を図ってきました。

- 意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として「スポーツ競技力の向上」が大切と答えた市民の割合は 65.9%であり、また、児童生徒が運動・スポーツに関して求める情報として「競技のルールや練習方法」が 32.0%、スポーツの指導をしてもらいたい人として「プロのコーチ」が 32.9%と最も高く、上手になりたいという意識の高さがうかがえます。

- 一方、国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手の割合は、最近5年間の平均では約 44%となっており、国民体育大会の総合の部で広島県は平成 8 年(1996 年)以後、入賞(8 位以内)しておらず、特に少年の部の低迷が続いています(表 8 参照)。

表 8 最近 5 年間の国民体育大会における広島県の順位と広島市選手の割合の推移

区分	平成 17 年 (2005 年)	平成 18 年 (2006 年)	平成 19 年 (2007 年)	平成 20 年 (2008 年)	平成 21 年 (2009 年)	平均
総合の部	9 位	13 位	18 位	13 位	11 位	
成年の部	6 位	8 位	13 位	12 位	6 位	
少年の部	17 位	24 位	27 位	20 位	25 位	
広島市選手の割合	43.2%	49.2%	41.4%	43.6%	43.3%	44.2%

(7) トップレベルのスポーツ

○ トップレベルのスポーツを観戦することは、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、多くの市民がスポーツをする動機付けになるとともに、人が集まり、動くことで経済への波及効果やまちのにぎわいの創出を期待することができます。

○ 広島市では、第12回アジア競技大会（平成6年(1994年)）や第51回国民体育大会（平成8年(1996年)）の開催を契機として、スポーツ施設の充実を図るとともに、大会の運営ノウハウの蓄積や大会を支える市民のボランティアの育成など大きな財産を生み出しました。

その後も「*JOCパートナー都市協定」の活用などにより、国際的・全国的なスポーツ大会やナショナルチームの強化合宿の誘致に取り組んできました（表9）。

表9 主な国際的・全国的なスポーツ大会の開催状況

区分	国際大会		全国大会	
	総合大会	競技大会	総合大会	競技大会
平成18年度 (2006年度)		<ul style="list-style-type: none"> ●2006年FIBAバスケットボール世界選手権広島ラウンド ●2006バレーボール世界選手権第2次ラウンド広島大会 	<ul style="list-style-type: none"> ■スポーツマスターズ2006広島大会 	<ul style="list-style-type: none"> ■レディース陸上競技大会 ■日本オブディミストセーリング選手権大会
平成19年度 (2007年度)		<ul style="list-style-type: none"> ●FIVBワールドカップ2007広島大会（バレーボール） 		<ul style="list-style-type: none"> ■全日本実業柔道団体対抗大会 ■レディース陸上競技大会 ■全日本OP級チームレース選手権大会 ■全国グラウンド・ゴルフ交歓大会
平成20年度 (2008年度)				<ul style="list-style-type: none"> ■全日本OP級チームレース選手権大会 ■全日本チームレース（スナイブ級）選手権大会 ■全日本大学対抗卓球選手権大会 ■全国市役所卓球大会（広島大会） ■全国消防親善バスケットボール広島大会 ■全国フットベースボール大会 ■全国高等学校スケート競技（フィギュア）選手権大会
平成21年度 (2009年度)		<ul style="list-style-type: none"> ●世界躰道（たいどう）選手権大会／世界躰道（たいどう）優勝大会 		<ul style="list-style-type: none"> ■全日本OP級チームレース選手権大会 ■全日本チームレース（スナイブ級）選手権大会 ■全国シニア（60歳以上）サッカー大会／シニア（70歳以上）サッカーフェスティバル ■全日本実業団バドミントン選手権大会 ■日本陸上競技選手権大会 ■2009ザ・バスケップ全国選抜外剛-グ野球大会 ■JOCジュニアオリンピックカップ全日本卓球選手権大会 ■全国ミニテニス交流「広島大会」 ■全日本バトントワリング選手権大会
毎年度開催	<ul style="list-style-type: none"> ●織田幹雄記念国際陸上競技大会 ●ヒロシマ国際ハンドボール大会 ●アジアカップひろしま国際ソフトテニス大会 ●ひろしま国際平和マラソン ●PeaceCup国際交流車いすテニス大会 		<ul style="list-style-type: none"> ■天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会（ひろしま男子駅伝） ■JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアソフトテニス選手権大会 ■JABA広島大会（野球） ■ソフトテニス日本リーグ 	

○ 意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として、「国際スポーツ大会などの開催・誘致」や「日本代表チームなどの合宿の誘致」について、半数近くの市民が大切と答えています。また、スポーツ競技の国際大会について、関心があると答えた市民が79.4%、児童生徒が77.4%と多くの人が関心を持っています。

- 広島市を舞台に活躍しているプロやトップレベルの企業等のスポーツチームが多数あり、そのチーム数は全国トップレベルです（表 10）。

これらのトップスポーツチームは、「すべての広島の人々が、すべての広島のスポーツ（チーム・選手）を応援するような、郷土愛あふれる広島の実現や地域の活性化に貢献する」ことなどを目的に、競技種目の枠を超えて「特定非営利活動法人 広島トップスポーツクラブネットワーク」（略称：トップス広島。以下「トップス広島」という。）を平成 12 年(2000 年)4 月に設立し、競技活動の傍ら、地域におけるスポーツの普及・振興に関わる活動を行っています。

- 意識調査では、これからのスポーツ振興の在り方として「プロスポーツ（広島東洋カープ、サンフレッチェ広島）の振興」を 72.8%、「JTサンダースなどトップレベルのアマチュアスポーツの振興」を 59.6%の市民が大切と答えており、多くの市民がトップレベルのスポーツの振興を大切と考えています。

しかし、トップス広島を知っている市民の割合は 43.2%で、平成 14 年度（2002 年度）に行った同様の意識調査結果（10.0%）に比べるとトップス広島の認知度が高まっているものの、観戦者数については、プロスポーツチームである広島東洋カープやサンフレッチェ広島以外は、おおむね横ばい傾向となっています（図 2、表 11）。



トップス広島に加盟しているチーム（平成 22 年(2010 年)4 月現在）



サンフレッチェ広島／サッカー



JTサンダース／バレーボール（男子）



湧永製薬ハンドボール部（ワクナガレオリック）／ハンドボール（男子）



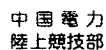
広島メイプルレッズ／ハンドボール（女子）



広島ガスバドミントン部／バドミントン（女子）



NTT西日本広島ソフトテニスクラブ／ソフトテニス（男女）



中国電力陸上競技部／陸上競技（男子）



コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部／ホッケー（女子）



広島東洋カープ／野球

表10 政令指定都市のプロスポーツチームや企業スポーツチーム等の状況
(平成22年(2010年)4月現在)

区分	「トップス広島」加盟チームが参加するリーグ等								その他
	プロ野球	サッカー Jリーグ	バレーボール Vプレミアリーグ	日本ハンドボ ールリーグ	バドミントン 日本リーグ	ホッケー 日本リーグ	ソフトテニス 日本リーグ	全国実業団 対抗駅伝	
札幌市	北海道日本 ハムファイターズ	コンサドーレ札幌			JR北海道			ホクレン	レラカムイ北海道(バスケット) JR北海道(卓球)
仙台市	東北楽天ゴールデンイーグルス	ベガルタ仙台			NTTグループ東北 七十七銀行				仙台89ERS(バスケット)
さいたま市		浦和レッドダイヤモンズ 大宮アルディージャ						しまむら	
千葉市	千葉ロッテマリーンズ	ジェフユナイテッド市原・千葉						富士通	
横浜市	横浜ベイスターズ	横浜F・マリノス 横浜FC			日立情報通信エンジニアリング			パナソニック	
川崎市		川崎フロンターレ	NECレッドロケッツ						東芝ブレブサンダース(バスケット) 富士通レッドウェーブ(バスケット) 信号器材(卓球) 東信電気(卓球)
相模原市									
新潟市		アルビレックス新潟						新潟アルビレックスランニングクラブ	新潟アルビレックス BB(バスケット)
静岡市		清水エスパルス							シャンソン化粧品 シャンソンVマジック(バスケット)
浜松市								スズキ ユタカ技研	浜松・東三河フェニックス(バスケット)
名古屋市	中日ドラゴンズ	名古屋グランパスエイト		大同特殊鋼 HC名古屋	ジェイテクト	名古屋フラテル	東邦ガス		三菱電機ダイヤモンド ドルフィンズ(バスケット) トヨタ自動車アンテロープス(バスケット) 三菱電機コアラーズ(バスケット)
京都市		京都サンガF.C.				立命館大学	京都市役所 京都信用金庫	ワコール	京都ハンナリーズ(バスケット)
大阪市	オリックス・バファローズ	セレッソ大阪	JTマーヴェラス					NTT西日本 大阪府警	近鉄ライナーズ(ラグビー) 日本生命(卓球) 大阪エヴェッサ(バスケット)
堺市			堺ブレイザーズ						
神戸市		ヴィッセル神戸	久光製薬スプリングス					ノーリツ	神戸製鋼コベルコスティーラーズ(ラグビー)
岡山市		ファジアーノ岡山	岡山シーガルズ					天満屋	
北九州市		ギラヴァンツ北九州						安川電機	
福岡市	福岡ソフトバンクホークス	アビスパ福岡						九電工	九州電力キューデンヴォルテクス(ラグビー) コカ・コーラウエストレッドスパークス(ラグビー) ライジング福岡(バスケット)

下線：トップス広島に加盟しているチーム

※ 本拠地は安芸高田市ですが、トップス広島に加盟しており、広島市でも毎年日本リーグ公式戦が行われることから掲載しています。

図2 広島東洋カープ、サンフレッチェ広島の1試合当たり平均観戦者数の推移
(市内開催の公式戦における平均観戦者数)

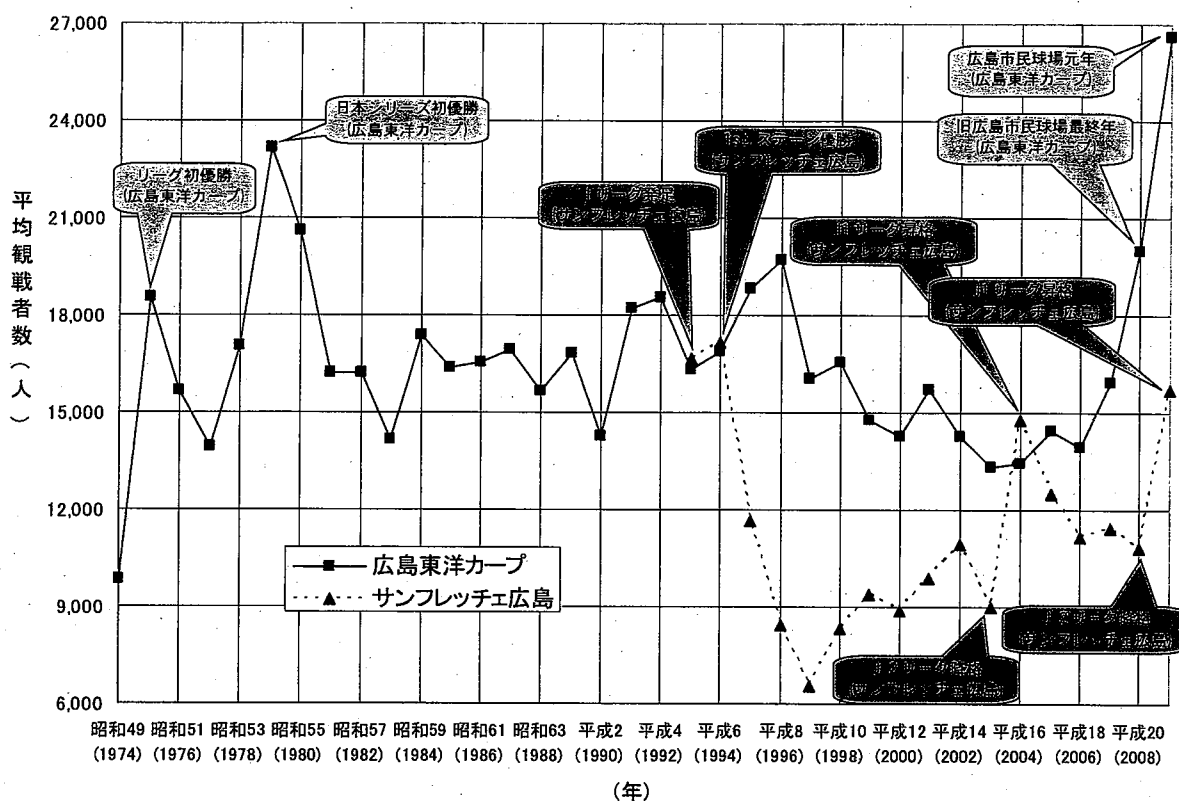


表11 トップス広島 (広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、中国電力陸上競技部を除く) の1試合当たり平均観戦者数の推移 (日本リーグの市内開催試合における平均観戦者数)

区分	平均観戦者数 (人)		
	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)
J Tサンダーズ	3,748	3,790	3,465
湧永製薬ハンドボール部	737	933	641
広島メイプルレッズ	548	501	483
広島ガスバドミントン部	1,150	1,100	※ -
N T T西日本広島ソフトテニスクラブ	1,020	1,000	1,167
コカ・コーラウエストレッドスパークス ホッケー部	452	633	716

※日本リーグの市内開催試合なし

※ 「第2章 計画策定の背景」に掲載している表及び図について、計画の見直し時点の数値等に修正したものを巻末の「資料編」に掲載しています。

3 広島市のスポーツ振興における課題

以上のような社会環境の変化や広島市のスポーツの現状を踏まえ、今後のスポーツ振興を図るため、次の課題の解決に取り組む必要があります。

(1) 誰もが気軽に参加することのできるスポーツの振興

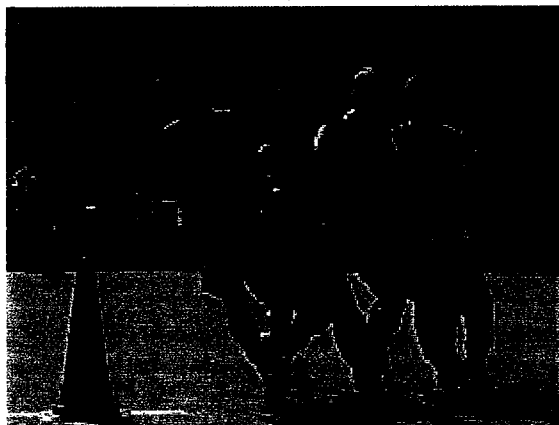
- 子どもから高齢者、障害者など幅広い市民を対象とした気軽にスポーツに親しむための動機付けが必要です。
- 個人の健康や体力、ニーズに応じてスポーツを誰もが楽しく続けることのできる環境づくりが必要です。
- 子どもが積極的に運動・スポーツに親しむ習慣や意欲を培うことにより、子どもの体力や運動能力等の向上を図る必要があります。
- 地域コミュニティの活性化などに向けて、人と人がふれあい、絆を深めることができるよう、様々なスポーツの機会を創出する必要があります。

(2) ジュニア層を中心とした競技力の向上

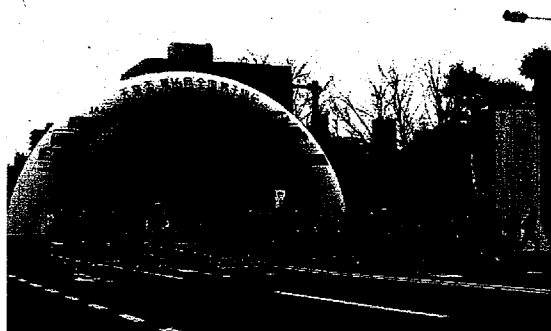
- スポーツ人口の裾野の拡大や競技力の底上げを図り、全国規模の大会で活躍するジュニア選手を育成する必要があります。

(3) トップレベルのスポーツの振興

- トップレベルのスポーツチームが更に活躍することができるよう、チームの活動を支援する必要があります。
- 国際的・全国的なスポーツ大会等においてトップレベル選手のハイレベルなプレーを観たり、感じたりすることのできる機会を創出するとともに、広島市を舞台に活躍するトップレベルのスポーツチームを市民と一緒に盛り上げていく必要があります。



スポーツ・レクリエーションフェスティバル



天皇盃 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

第3章 基本理念とその実現に向けて

1 基本理念

新しい「スポーツ王国広島」を目指して

～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～

これまで、様々なスポーツ振興施策の推進を図ってきた中、「スポーツ王国広島」は競技力の向上が達成された姿としてイメージされてきました。

今日の広島市のスポーツの現状や課題、成果を踏まえ、今後はスポーツ振興を担う組織間で連携・協働し、施策の一体的な展開に取り組む必要があります。

こうした点を主眼に置き、本計画では、「スポーツ・フォア・オール」の理念にのっとり、子どもから高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで全ての市民が様々なスポーツに関わり、生きがいを感じることでできる明るく活気あふれる平和なまちづくりに取り組むことにより、スポーツや仲間、広島が好きな市民の笑顔であられる新しい「スポーツ王国広島」を目指します。

スポーツ・フォア・オール

1975年にヨーロッパスポーツ担当大臣会議で採択された「みんなのスポーツ憲章」に由来する。スポーツは人間性や社会の発展に必要な要素であり、スポーツをすることは人間の権利であるという理念。我が国では「みんなのスポーツ」と呼ばれている。

2 基本方針及び目標年度の数値目標

基本理念の実現に向けて、次の(1)～(4)に掲げる四つの基本方針の下、施策の推進に取り組めます。また、基本方針ごとに取組の成果を計るため、目標年度(平成32年度(2020年度))における数値目標を設定します。

(1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、それぞれの体力や技術、興味や目的に応じて、気軽にスポーツを楽しむことができるよう、市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり、健康づくり・体力づくりや地域コミュニティの活性化に向けたスポーツの振興などにより、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。

また、「元気じゃけんひろしま21(第2次)」において、健康寿命の延伸を実現するためには、社会生活を営むための機能を高齢になっても可能な限り維持することが重要であるとされており、高齢世代の健康に焦点を当てた健康寿命の延伸につながる取組を強化します。

数値目標①	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を70%以上にします。
-------	-------------------------------------

数値目標②	30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合を男性66%、女性56%にします。
-------	--

注1 広島市市民健康づくり生活習慣調査結果(男性57.9%、女性47.9%[平成23年度])に基づき設定しています。

注2 「元気じゃけんひろしま21(第2次)」では、「30分以上健康のために歩く70歳以上の者の割合の増加」の目標を「平成34年度に男性68%、女性58%」に設定しています。

(2) 学校における体育・スポーツの充実

子どもが積極的に運動・スポーツに親しむことができるよう、学校の体育授業や運動部活動の充実、スポーツ環境の整備などにより、学校における体育・スポーツの充実を図ります。

数値目標	*全国体力・運動能力、運動習慣等調査（高等学校は新体力テスト）の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を小学校は7/8種目以上、中学校・高等学校は7/9種目以上にします。
------	--

(3) 競技力の向上

広島市出身のスポーツ選手が全国規模のスポーツ大会で活躍することができるよう、競技団体等と連携したジュニア選手の育成・強化や優秀な指導者の養成・確保などにより、競技力の向上を図ります。

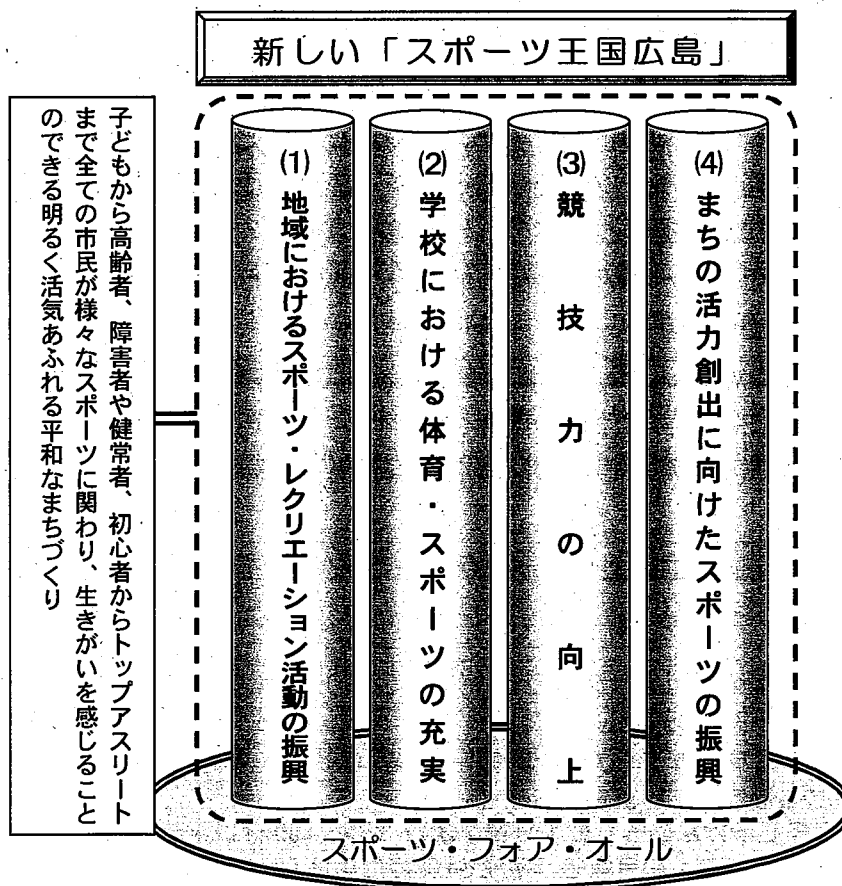
数値目標	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手（*ふるさと選手を含む。）の割合を65%以上にします。
------	--

(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興

市民のスポーツに対する興味・関心を高め、まちのにぎわいを創出することができるよう、国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致やトップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興などにより、まちの活力創出に向けたスポーツの振興を図ります。

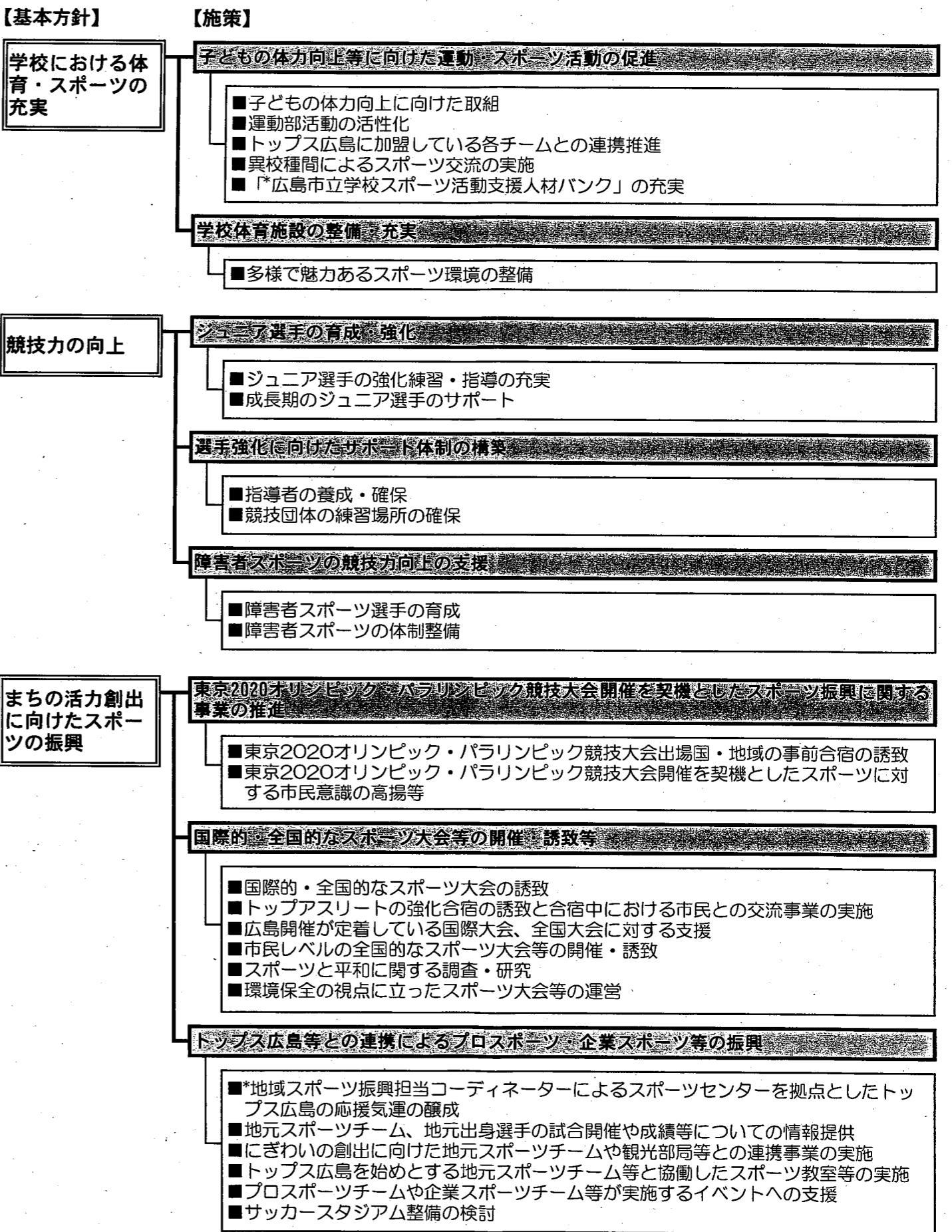
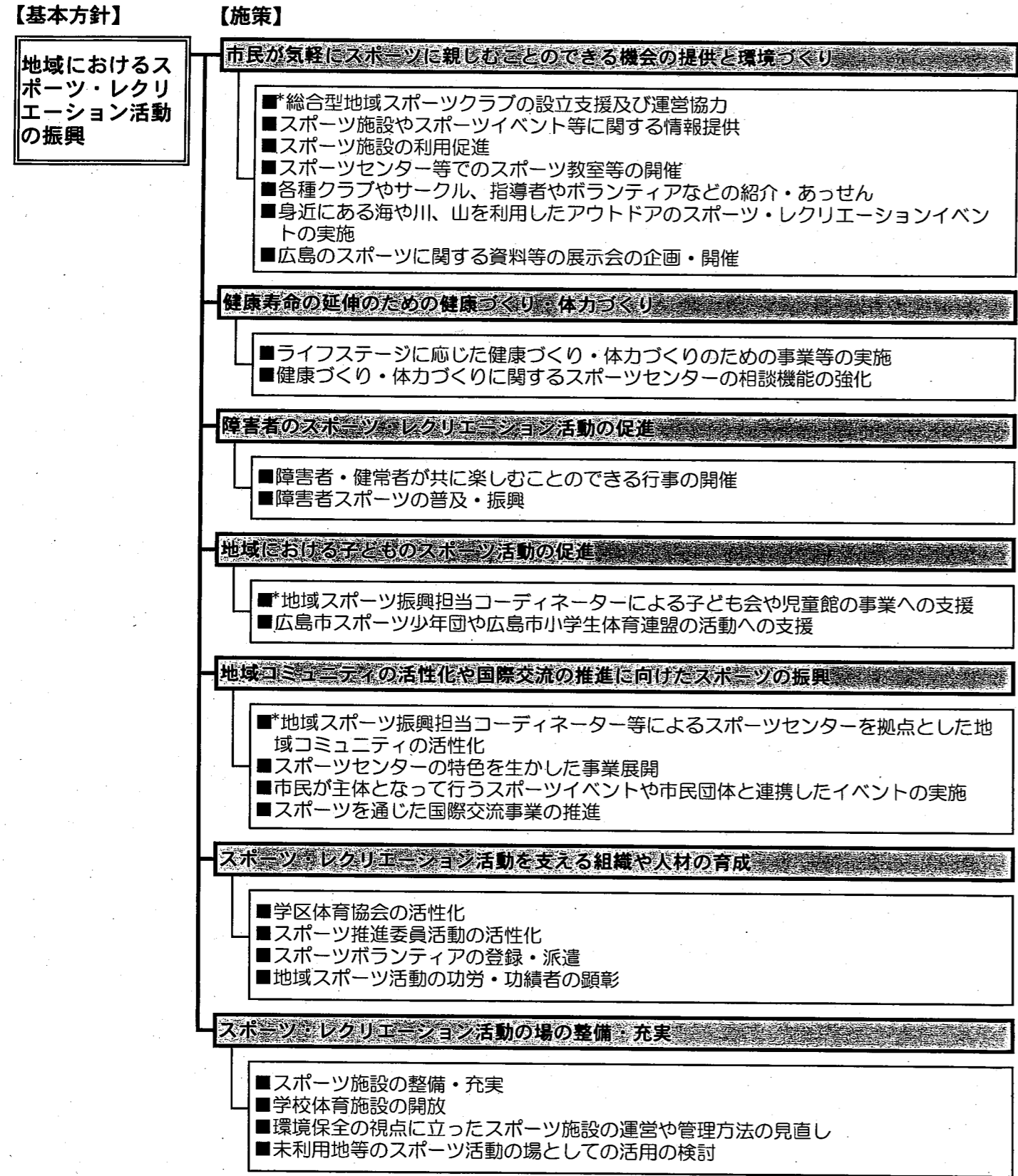
数値目標	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合を50%以上にします。
------	--

図3 基本理念とその実現に向けた基本方針の概念図



第4章 推進施策

1 施策の体系



2 施策の内容

(1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

ア 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり

(ア) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力

- 市民の誰もがスポーツに親しむことができるよう、「スポーツ・フォア・オール」の理念にのっとり、*地域スポーツ振興担当コーディネーターやスポーツ推進委員が連携して、学区体育協会を中心とする広島県の風土に適した*総合型地域スポーツクラブの設立を促進します。
- 既設立クラブに対し、より多くの市民が参加できるよう、必要に応じてクラブ運営に関する指導・助言を行います。
- *総合型地域スポーツクラブの設立・運営に当たり、ホームページの開設や活動場所・指導者の確保などの支援を行います。



総合型地域スポーツクラブのユニカール交流大会

(イ) スポーツ施設やスポーツイベント等に関する情報提供

- 広島市や公益財団法人広島市スポーツ協会の広報媒体を活用し、スポーツ団体と連携しながら、子どもから高齢者まで幅広い市民ニーズに的確に対応した情報提供を行います。
- 誰もが気軽に情報を入手することができるよう、*ICTを活用し、スポーツ施設やクラブ・サークル、スポーツイベントなど広島県のスポーツ情報を総合的に発信する情報サイトの開設に取り組みます。

(ウ) スポーツ施設の利用促進

- スポーツセンターについて、ロビー等の空きスペースの有効活用や地域団体等と連携した託児サービスなどにより、子育て世代の親が気軽にスポーツを楽しむことのできる環境を整えるとともに、スポーツ活動のみならず、地域の町内会や社会福祉協議会、民生委員・児童委員等と連携を密にし、地域コミュニケーションの場としての機能も有する地域スポーツの拠点施設を目指します。
- スポーツセンター等へのインターネットを利用した施設予約システムの導入について検討します。
- スポーツ施設を拠点に市民が自主的にクラブやサークルを新設することができるよう、指導・助言等を行います。
- 企業の福利厚生の一環として、スポーツ施設を利用してもらうための取組を行います。

(I) スポーツセンター等でのスポーツ教室等の開催

- 様々なスポーツニーズや技能レベルに応じ、民間スポーツクラブとの連携等により、多様なスポーツ教室等を開催します。
- 幼児のための運動教室やシニア層を対象とした介護予防教室等の利用者ニーズに対応した教室を始め、継続的な利用に結び付けるための体験教室など事業の拡充を図ります。



スポーツ体験事業（幼児体操）

(a) 各種クラブやサークル、指導者やボランティアなどの紹介・あっせん

- 各種クラブやサークル、指導者やボランティアなどの紹介・あっせんについて、スポーツセンターにおけるスポーツ相談事業を充実するとともに、誰もが簡単に情報を入手することができるよう、スポーツセンターへの掲示、広島市や公益財団法人広島市スポーツ協会等のホームページへの掲載など、紹介・あっせんに関する情報提供の充実に取り組みます。
- スポーツ活動やスポーツイベントをサポートする指導者やボランティアなどの登録、紹介・あっせんの一貫した取組を行います。

(b) 身近にある海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションイベントの実施

- 四季折々の自然を楽しむことができるよう、関係団体と連携し、年間を通じた積極的なイベントの開催に努めます。
- 各区の身近な自然を楽しむことのできるウォーキングマップ等の作成・普及に取り組みます。
- 海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションやイベントの効果的なPRを行います。

(c) 広島のスポーツに関する資料等の展示会の企画・開催

- 競技団体等と連携し、広島にゆかりのあるスポーツ選手、チーム、競技などに関する資料等を収集し、広島市が主催するイベントなどにおける展示会を企画・開催します。

イ 健康寿命の延伸のための健康づくり・体力づくり

(ア) ライフステージに応じた健康づくり・体力づくりのための事業等の実施

- 幼児期からのスポーツ活動を促進するため、親子で楽しむことのできる運動教室や体験教室など、幼児を対象とした事業を実施します。
- メタボリックシンドローム予防対策事業や運動・栄養による健康増進に関する相談活動など40代からの健康づくり事業を実施します。
- 健康ウォーキングや健康体操等の指導を行うアクティブシニア健康増進リーダーを養成するとともに、老人クラブや社会福祉協議会等と連携・協力し、高齢者の健康づくり・体力づくりのための事業を実施します。
- 市民が日常的にスポーツに取り組む動機付けとなるよう、地域団体や企業のほか健康福祉部局等と連携し、健康増進につながるラジオ体操やシニアのためのウォーキング等の促進に取り組むとともに、通勤等における自転車利用の促進に取り組みます。
- 健康づくり・体力づくりに関する情報について、健康福祉部局と連携し、市民や地域団体、企業等に対して広く提供し、その周知を図るとともに、個人やグループがいつでも気軽にスポーツができる環境づくりに取り組みます。



高齢者のための転倒予防事業

(イ) 健康づくり・体力づくりに関するスポーツセンターの相談機能の強化

- スポーツセンターへの*スポーツプログラマーや*健康運動指導士等の有資格者の配置を促進します。
- 保健センターや健康づくりセンター等の各種保健医療関係機関・団体と連携した医事・栄養相談活動を行うなど、健康づくり・体力づくりに関するスポーツセンターの相談機能を強化します。

ウ 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進

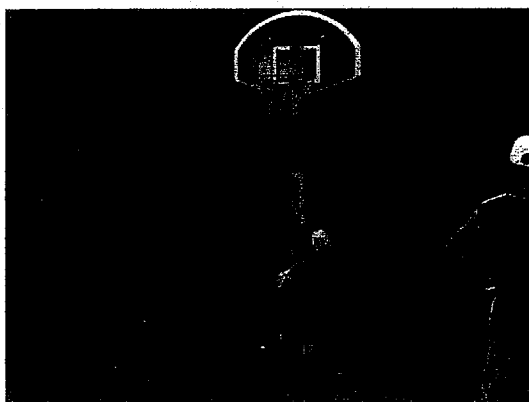
(ア) 障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催

- 広島市心身障害者福祉センターが実施するスポーツ行事等の充実を図るとともに、ひろしま国際平和マラソンの車椅子種目において、より多くの障害者が参加できるよう、環境づくりや周知方法について検討します。

- 障害者・健常者が共に楽しむことができるよう、区民スポーツ大会、スポーツ・レクリエーションフェスティバル等の内容を検討するとともに、広島市障害者スポーツ協会やスポーツ団体等と連携して行事の開催に必要なボランティアの育成や活動場所の拡大などを検討します。

(4) 障害者スポーツの普及・振興

- 車椅子バスケットボール、*シットイングバレーボールなどの各種障害者スポーツ大会やスポーツ教室を広島広域公園、広島市心身障害者福祉センター等において開催するとともに、市内の福祉専門学校や大学の学生による障害者スポーツ大会等でのボランティア活動を促進します。
- 障害者団体等のニーズに応じ、地域で障害者向けのフィットネス体操やスポーツの実技指導等を行うとともに、健康づくりに関する相談・啓発を行います。
- 小・中学校や関係団体との連携により、障害者スポーツの理解の促進や介助者の拡大、ボランティアの育成や*障害者スポーツ指導員の養成、障害者スポーツの活動場所の拡大など障害者がスポーツに親しみやすい環境づくりに取り組みます。



車椅子バスケットボール

エ 地域における子どものスポーツ活動の促進

(7) *地域スポーツ振興担当コーディネーターによる子ども会や児童館の事業への支援

- 子ども会や児童館で実施している体操や*ニュースポーツ、公民館まつり等のイベントで実施する体力測定など団体や施設が地域の子どもの対象に実施する事業の指導者に対し、*地域スポーツ振興担当コーディネーターによる指導等の支援を行います。

(4) 広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟の活動への支援

- 広島市スポーツ少年団の交流事業等や広島市小学生体育連盟のスポーツ教室等に対する支援を行います。
- 広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟等と連携し、競技団体からの指導者の招へいやトップス広島の加盟チームの選手との交流事業など、地域における子どものスポーツ活動の充実に向けた取組を検討します。
- 子どものスポーツ活動を促進するため、広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟の活動の広報に取り組みます。

- 子どもがスポーツボランティアとして活動し、スポーツを支える人材としても育つよう、広島市スポーツ少年団や広島市小学生体育連盟の活動の幅を広げる取組を促進します。



広島市スポーツ少年団大会

オ 地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興

(ア) *地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化

- *地域スポーツ振興担当コーディネーターやスポーツ推進委員が、地域団体の主催事業の円滑な運営や地域住民のスポーツ活動の促進に向けた指導・助言を行うとともに、スポーツセンターにおけるイベント等へ多くの市民が参加し異年齢・世代間の交流が盛んになるよう取り組むことにより、地域コミュニティの活性化を図ります。



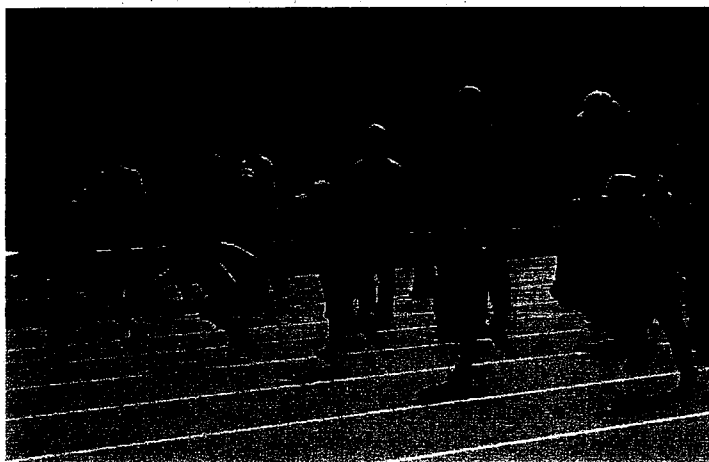
地域スポーツ振興担当コーディネーターによるニュースポーツ交流会

(イ) スポーツセンターの特色を生かした事業展開

- 競技団体と連携し、第12回アジア競技大会や第51回国民体育大会の開催に向けて整備した特定競技種目の設備やその活用ノウハウ等を生かした事業を推進します。
- *地域スポーツ振興担当コーディネーターやスポーツ推進委員が中心となり、地域団体や公民館等と連携し、地域のニーズを掘り起こしながら、地域の特色となる事業の検討やニュースポーツの普及に取り組みます。

(ウ) 市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施

- スポーツ・レクリエーションフェスティバルや区民スポーツ大会等の市民が主体となって行うスポーツイベントを開催するとともに、イベント開催時のアンケートにより参加者のニーズを把握し、誰でも気軽に参加できる内容を検討します。
- 学生ボランティア団体等の市民団体と企画段階から連携したスポーツイベントを開催します。



スポーツ・レクリエーションフェスティバル

(I) スポーツを通じた国際交流事業の推進

- 競技力向上や*国際理解教育、平和に関する取組を取り入れながら、姉妹・友好都市との青少年によるスポーツ交流事業を一層推進するとともに、広島市スポーツ少年団のスポーツ交流や*シェイク ファハド 広島・アジア青少年スポーツ交流事業を推進します。
- 競技団体等が主催する国際大会等でのスポーツ交流事業を支援します。

カ スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成

(ア) 学区体育協会の活性化

- 地域スポーツの中心的団体である学区体育協会の事業への参加やクラブに加入する市民が増加するよう、*地域スポーツ振興担当コーディネーターやスポーツ推進委員が連携して取り組みます。

(イ) スポーツ推進委員活動の活性化

- スポーツ推進委員の研修会や*地域スポーツ振興担当コーディネーターとの意見交換会を開催するとともに、市民が気軽にスポーツ推進委員を活用することのできる方策や新たな担い手となる人材を確保する方策について検討を進めることにより、スポーツ推進委員活動の活性化に取り組みます。
- 市民に対してスポーツ推進委員の認知度を高めるため、ホームページ等でスポーツ推進委員の活動を紹介するなど積極的な情報発信に取り組みます。

(ウ) スポーツボランティアの登録・派遣

- 市民が実践するスポーツ活動や各種団体が開催するスポーツイベントを支援するスポーツボランティアの活動や登録・派遣制度について積極的に広報を行うとともに、スポーツボランティアの登録・派遣制度の充実を図ります。

(エ) 地域スポーツ活動の功労・功績者の顕彰

- 地域スポーツ団体の組織基盤の強化を図るため、地域スポーツ活動に関し功労・功績のあった人を顕彰します。

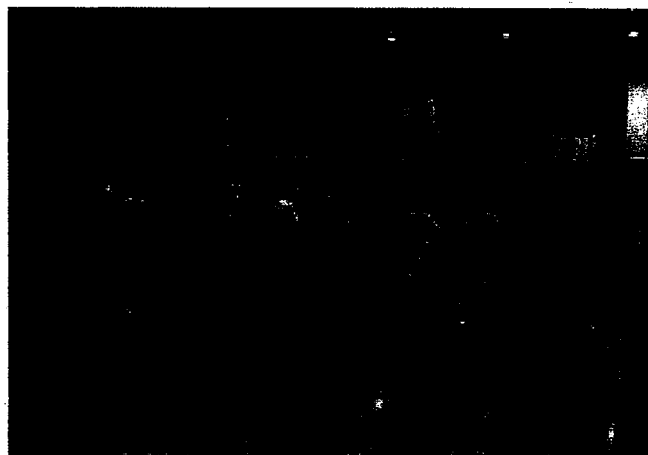
キ スポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実

(ア) スポーツ施設の整備・充実

- 各スポーツ施設の劣化状況について調査を行い、長期的な改修計画を策定し、その改修計画に基づき老朽化した施設の改修や補修、設備更新を行います。
また、少年硬式野球を行うことのできる施設の整備に取り組みます。
- 昭和56年(1981年)に改正された建築基準法の耐震基準に適合していないスポーツ施設の耐震化や大規模空間を有するスポーツ施設の吊り天井の崩落防止対策に取り組みます。
- *公共施設整備基準に適合していない設備等を調査し、改修等に取り組みます。

(イ) 学校体育施設の開放

- 学校体育施設が地域住民のスポーツ活動場所の中心となり、より多くの人々が気軽に学校体育施設を利用することができるよう、学校体育施設開放事業を推進するとともに、その運営方法・利用条件等の仕組みや広報の充実について検討します。



学校体育施設開放事業

(ウ) 環境保全の視点に立ったスポーツ施設の運営や管理方法の見直し

- 環境保全の視点から、プール加温用燃料の使用量の抑制、効率的な暖房設備の使用、ロビー等の照明の消灯などに取り組むとともに、スポーツ施設の緑化やスポーツセンター（東区を除く。）の駐車場有料化などの取組について調査・研究します。

(I) 未利用地等のスポーツ活動の場としての活用の検討

- 市民ニーズを踏まえ、未利用地等を活用し、市民が、日常的にスポーツができる運動広場等の環境の整備に取り組みます。
- 市民にとって身近な公園等に、気軽にスポーツができる器具等の設置について検討します。あわせて、子どもから高齢者まで安心してスポーツができる環境づくりについて検討します。

(2) 学校における体育・スポーツの充実

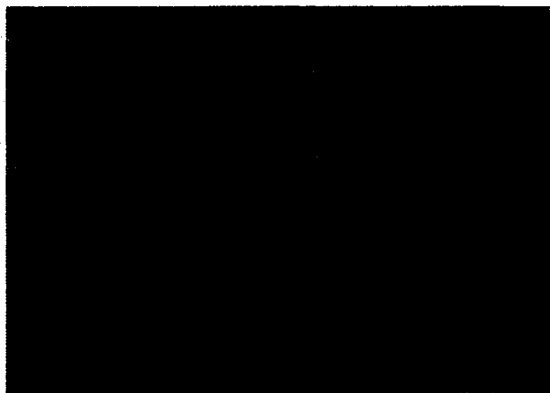
ア 子どもの体力向上等に向けた運動・スポーツ活動の促進

(7) 子どもの体力向上に向けた取組

- 小学校における体力向上に向けた取組として、*体力アップハンドブックの配布や*体力づくりチャレンジの実施、体力アップ認定証及び体力優秀賞の交付などを行います。
- 中学校における体力向上に向けた取組として、体力アップ認定証及び体力優秀賞の交付、中学校体育大会への派遣の補助、体育大会の開催などを行います。
- 教員の体育指導の能力向上に向けた研修を計画的に実施するとともに、*体力向上推進校を指定し、その取組の成果を全校に普及することで、体育科授業や体育的活動の充実を図ります。

(4) 運動部活動の活性化

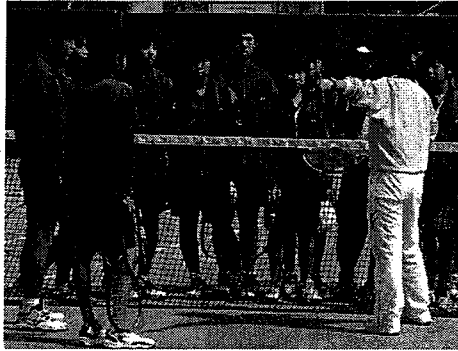
- 中・高校生の多様なスポーツニーズに対応するとともに、運動部の顧問教諭の指導力の向上を図るため、専門的技術指導力を備えた地域のスポーツ経験者を各校へ派遣します。



高等学校における運動部活動

(ウ) トップス広島に加盟している各チームとの連携推進

- 運動やスポーツに対する関心や意欲を高めるため、トップス広島の加盟チームと連携し、学校にプロ選手や企業の一流選手等を招へいするなど、児童生徒にトップレベルのプレーに触れる機会を提供します。
- 運動部の指導者の指導力や中学生の技能の向上を図るため、トップス広島の加盟チームの指導者や選手を中学校体育大会等へ招へいします。



一流選手による学校運動部の指導

(I) 異校種間によるスポーツ交流の実施

- 小学生の運動やスポーツに対する興味・関心を高めるとともに、運動部活動の活性化を図るため、運動部に所属する中・高校生が小学生を指導するなど異校種間によるスポーツ交流を実施します。

(オ) 「*広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実

- 体育科の授業の充実や運動部活動の活性化を図るため、「*広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実に努めます。

イ 学校体育施設の整備・充実

(7) 多様で魅力あるスポーツ環境の整備

- 屋外運動場(グラウンド)や屋内運動場(体育館)の改修を計画的に行うなど、快適なスポーツ環境の確保に向けた学校体育施設の充実やその有効活用を図ります。
- 中学校の新設や改築に併せて計画的に武道場を整備します。

(3) 競技力の向上

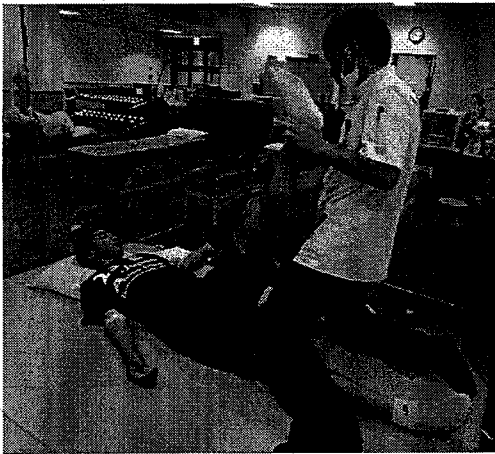
ア ジュニア選手の育成・強化

(7) ジュニア選手の強化練習・指導の充実

- 広島県や競技団体、学校運動部等の連携により、素質・能力のあるジュニア選手を発掘するとともに、強化合宿の開催や遠征等の競技力向上対策事業を実施します。
- より多くのジュニア選手が、将来、国民体育大会等の全国規模の大会で活躍することができるよう、広島県や競技団体、広島市中学校体育連盟、広島市小学生体育連盟、広島市スポーツ少年団等の関係団体と連携し、小学生から高校生まで計画的に育成する仕組みなど、一貫した指導体制の構築に取り組みます。
- 競技人口の少ない競技のジュニア選手が、継続して競技を行うことのできる方策について、競技団体や学校運動部等と連携し検討します。
- ジュニア選手の競技力向上に向けて、沼田高等学校体育コースにおいて、体育指導担当講師を配置するなど、指導体制や練習環境の充実に努めます。

(4) 成長期のジュニア選手のサポート

- 学校運動部、広島市スポーツ少年団、競技団体と医療機関との連携を促進し、国民体育大会等を目指すジュニア選手を対象としたメディカルチェック等を実施するとともに、小・中・高校生の指導者を対象とした*スポーツ障害や栄養指導に関する講習会等の開催を検討します。
- 一般社団法人広島県医師会等の関係団体と連携し、国民体育大会等で活躍する選手の育成・強化に向けた継続的なサポート体制を検討します。



ジュニア選手メディカルチェック事業

イ 選手強化に向けたサポート体制の構築

(7) 指導者の養成・確保

- 競技別指導者養成講習会等を実施するとともに、ホームページ等を活用し、公益財団法人日本体育協会や中央競技団体等が運用する指導者養成制度を利用した指導者資格取得を促進します。
- 小学生から高校生までの一貫した指導体制の構築に向け、小・中・高校生の指導者を対象とした合同研修会の開催など指導者の養成・確保策や指導者が地域で円滑に活動することのできる体制を検討します。

(4) 競技団体の練習場所の確保

- 競技団体の練習場所としてスポーツセンター等の休館日や開館時間外を効率的に活用することができるよう、利用調整や受入体制の充実を図ります。

ウ 障害者スポーツの競技力向上への支援

(7) 障害者スポーツ選手の育成

- 広島県や競技団体等と連携し、国際大会や全国大会などで活躍できる素質・能力のある選手の発掘・育成を推進します。また、全国大会への選手の派遣等を通じて、障害者スポーツの競技力向上を支援します。

(4) 障害者スポーツの体制整備

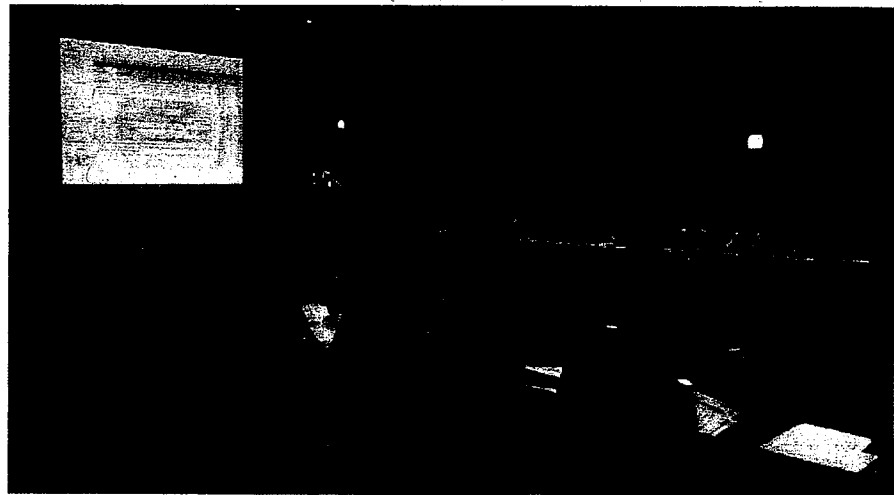
- *障害者スポーツ指導員の養成や競技団体の組織化などを進めることにより、障害者スポーツの体制整備に取り組みます。

(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興

ア 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツ振興に関する事業の推進

(7) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会出場国・地域の事前合宿の誘致

- 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や競技団体等と連携し、ナショナルチームの事前合宿の誘致に取り組みます。誘致に当たっては、*スポーツツーリズムの観点から、国際大会の実績、トップス広島が存在、平和への取組及び魅力的な観光資源などのアピールポイントを関係機関等と連携して発信するとともに、ボランティアの育成等、受入体制の充実について検討します。



広島市事前合宿等誘致意見交換会～東京 2020 オリンピック・パラリンピックにむけて～

(4) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機としたスポーツに対する市民意識の高揚等

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、スポーツに対する市民意識の高揚を図る取組について検討します。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の終了後においても、継続してスポーツに親しむ市民の増加やジュニア選手の競技力向上への意識高揚につながる取組などについて検討します。

イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等

(7) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致

- 「*JOCパートナー都市協定」を活用するなど関係機関や競技団体との連携により、障害者スポーツを含む国際的・全国的なスポーツ大会を誘致します。誘致に当たっては、観光部局等との連携により、広島で大会を開催するメリットなどの効果的なPRや受入体制の充実について検討します。
- *スポーツツーリズムの推進に向けて、誘致した国際的・全国的なスポーツ大会について、市民を始め、市外からも多くの人に観戦に来てもらえるよう、関係団体等と連携し、積極的なPR活動を行います。

(イ) トップアスリートの強化合宿の誘致と合宿中における市民との交流事業の実施

- 「*JOCパートナー都市協定」を活用するなど関係機関や競技団体との連携により、国内外ナショナルチームの強化合宿を誘致します。誘致に当たっては、観光部局等との連携により、広島で合宿を行うメリットなどの効果的なPRや受入体制の充実について検討します。
- 合宿中におけるトップアスリートと地元選手との合同練習会や市民との交流事業を実施します。

(ロ) 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援

- ヒロシマ国際ハンドボール大会、Peace Cup国際交流車いすテニス大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会等の国際大会や全国大会について、参加する選手・役員等に対する受入体制の充実を図るとともに、ホームページや広報紙等において、積極的にPR活動を行い、市民を始め、市外からも多くの人に観戦に来てもらえるよう取り組みます。

また、大会の開催効果がより発揮されるよう、補助金の交付やスポーツボランティアの派遣など必要な支援を行います。

(ハ) 市民レベルの全国的なスポーツ大会等の開催・誘致

- *スポーツツーリズムの推進に向けて、既存の市民参加型の全国的なスポーツ大会等を調査し、誘致に向けた働き掛けとPR活動を展開します。
- ひろしま国際平和マラソンについて、平和を実感することができるよう、平和大通りをスタート・ゴールとすることやフルマラソン化の検討を行います。



ひろしま国際平和マラソン

(ニ) スポーツと平和に関する調査・研究

- スポーツを通じて世界恒久平和を訴える事業の実施について調査・研究します。
- 広島県を始め、公益財団法人日本オリンピック委員会等と連携して、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に併せてスポーツと平和に関する国際会議を開催することについて検討します。

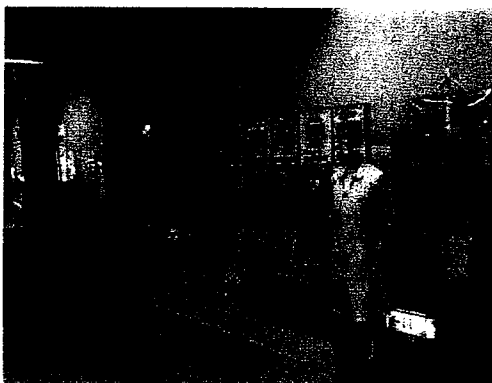
(ホ) 環境保全の視点に立ったスポーツ大会等の運営

- スポーツ大会開催時におけるペーパーレス化や公共交通機関の利用促進、ゴミの分別収集など環境に配慮したスポーツ大会等の運営に努めるとともに、各競技団体へも環境保全の視点に立った大会等の運営を呼び掛けます。

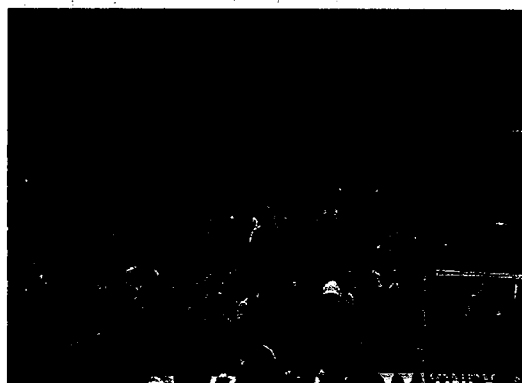
ウ トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興

(7) *地域スポーツ振興担当コーディネーターによるスポーツセンターを拠点としたトップス広島の応援気運の醸成

- トップス広島情報コーナーの設置などスポーツセンターを拠点としたトップススポーツ応援事業を実施します。
- *地域スポーツ振興担当コーディネーターが学区体育団体各区連合会等地域団体と連携し、各区で行っている地域に拠点を置くチームへの応援体制の充実に取り組みます。



スポーツセンター内のトップス広島情報コーナー



南区広島ガスバドミントン部応援隊

(4) 地元スポーツチーム、地元出身選手の試合開催や成績等についての情報提供

- 広島市や公益財団法人広島市スポーツ協会の広報媒体を活用し、トップス広島を始めとする地元スポーツチーム、地元出身選手の試合開催や成績等についての情報提供を行います。
- スポーツセンターやスポーツイベントでのトップス広島情報コーナーの設置のほか、公共施設でトップス広島のポスターやチラシの掲示・配布を行います。

(5) にぎわいの創出に向けた地元スポーツチームや観光部局等との連携事業の実施

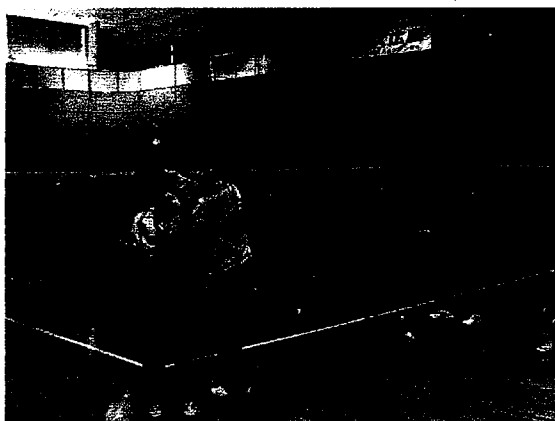
- *スポーツツーリズムの観点から、まちのにぎわいの創出に向け、観光部局等との連携により、トップス広島を中心とした地元で活躍するスポーツチームを貴重な観光資源として活用した事業を展開するとともに、地元スポーツチームと地元商店街等がタイアップした事業を検討します。

(E) トップス広島を始めとする地元スポーツチーム等と協働したスポーツ教室等の実施

- 学校や地域スポーツ団体と連携し、トップス広島を始めとする地元のスポーツチームやトップアスリート等と協働したスポーツ教室等や、学校運動部員等と地元スポーツチームとの合同練習などを実施します。

また、こうした事業を地元スポーツチームのイベント等に併せて実施するなど効果的な実施方法を検討します。

- ジュニア選手の競技力の向上のため、競技ごとに各学校の運動部から選抜した部員とトップス広島を始めとする地元スポーツチーム等との合同練習の実施や各チームの指導者・OB等による学校運動部員等への指導を行うことのできる仕組みづくりを検討します。



広島ガスバドミントン部と協働したスポーツ教室



広島メイプルレッズの選手との交流

(F) プロスポーツチームや企業スポーツチーム等が実施するイベントへの支援

- トップス広島の加盟チーム等が実施するイベントについて、PRや運営協力を行うなど、イベントが円滑に運営されるよう支援します。

(G) サッカースタジアム整備の検討

- 広島県、広島商工会議所等と一体となってサッカースタジアム整備について検討します。

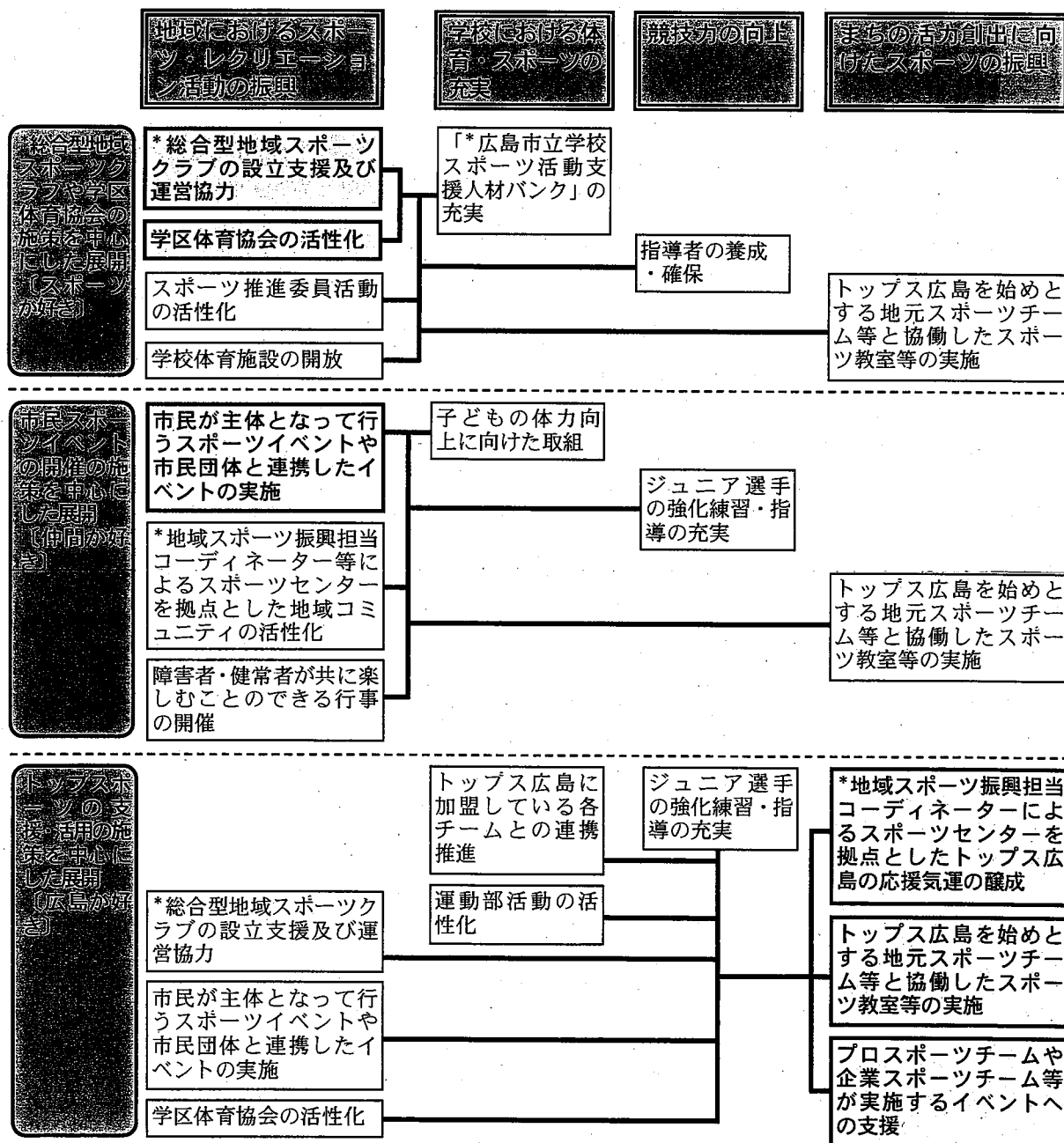
第5章 計画の推進

1 スポーツ振興を担う組織間の連携・協働による施策の一体的な展開

スポーツ振興については、これまで、地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興は学区体育協会やスポーツ推進委員が、学校における体育・スポーツの充実には教育委員会が、競技力の向上は競技団体が、まちの活力創出に向けたスポーツの振興は企業やスポーツ団体が主として取り組んできました。

今後は、スポーツ振興を担う組織が分野の枠を超えて相互に連携・協働して取り組むとともに、人材の好循環を生み出す中で、個々の施策をできる限り相互に関連付けて一体的に展開し、相乗効果を高めます（図4に、中心となる施策とそれに関連付けられた施策の一体的な展開イメージについて例示しています。）。

図4 施策の展開イメージ（例）



※ 詳細は表11のとおり

2 広島市スポーツ推進審議会を通じた計画の実効性の確保

施策の検討・実施状況について広島市スポーツ推進審議会へ報告し、同審議会において課題や問題点のチェック等による計画の進捗状況の評価や改善方策の検討などを行うことにより、計画の実効性を確保します。



広島市スポーツ推進審議会における審議

表11 施策の展開イメージ(例)

施策展開の内容		関連施策			
		地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	学校における体育・スポーツの充実	競技力の向上	まちの活力創出に向けたスポーツの振興
スポーツが好き	<p>*総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力や学区体育協会の活性化について、スポーツ推進委員や活動場所としての学校体育施設を活用することにより、スポーツ推進委員活動の活性化や学校体育施設開放事業の推進を図ります。</p> <p>また、指導者として「*広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」への登録者、競技力の向上のために養成・確保した指導者、トップス広島を始めとする地元スポーツチームの選手やコーチ等と協働することにより、トップスポーツの応援気運の醸成や能力ある人材の発掘を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ *総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力 ■ 学区体育協会の活性化 ■ スポーツ推進委員活動の活性化 ■ 学校体育施設の開放 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「*広島市立学校スポーツ活動支援人材バンク」の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指導者の養成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> ■ トップス広島を始めとする地元スポーツチーム等と協働したスポーツ教室等の実施
仲間が好き	<p>市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施について、*地域スポーツ振興担当コーディネーターや広島市障害者スポーツ協会等の関係者が連携して取り組むことにより、スポーツセンターを拠点とする地域コミュニティの活性化や障害者と健常者が交流することのできるイベントなどを推進します。</p> <p>また、イベントの企画に当たって、学校や競技団体との連携により、子どもが仲間と楽しみながら体力を向上させ、競技スポーツに親しむことのできる内容を検討する中で、子どもの体力向上やジュニア選手の発掘を図ります。</p> <p>さらに、市民団体と連携したイベントの中で、トップアスリートと市民との交流事業を実施することにより、トップスポーツの応援気運の醸成を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施 ■ *地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化 ■ 障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもの体力向上に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジュニア選手の強化練習・指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■ トップス広島を始めとする地元スポーツチーム等と協働したスポーツ教室等の実施
広島が好き	<p>トップス広島を始めとする地元スポーツチーム等の応援や地元スポーツチーム等と協働したスポーツ教室等の実施について、地域スポーツ団体や学校、競技団体と連携して取り組む中で、地域スポーツ活動や学校運動部活動の活性化、ジュニア選手の育成・強化を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ *総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力 ■ 市民が主体となって行うスポーツイベントや市民団体と連携したイベントの実施 ■ 学区体育協会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ トップス広島に加盟している各チームとの連携推進 ■ 運動部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジュニア選手の強化練習・指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ■ *地域スポーツ振興担当コーディネーターによるスポーツセンターを拠点としたトップス広島の応援気運の醸成 ■ トップス広島を始めとする地元スポーツチーム等と協働したスポーツ教室等の実施 ■ プロスポーツチームや企業スポーツチーム等が実施するイベントへの支援

用語の解説

【あ】

ICT

情報通信技術のこと。同義語として、IT (Information Technology の略) があるが、広島市では、情報通信技術の利活用を推進する上で、コミュニケーションの重要性を明確にするため、コミュニケーション (Communication) の頭文字Cが入った「ICT」を使用している。

【け】

健康運動指導士

保健医療関係者と連携し、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成や実践指導計画の調整等を行う人

【こ】

国際理解教育

外国の人々の生活や文化、歴史などに関する理解の促進、人権意識の醸成を目的とした教育

公共施設整備基準

広島市が設置し又は管理する施設について、身体障害者や高齢者などを含めた全ての市民が安全かつ快適に利用できるよう、広島市公共施設福祉環境整備要綱で定められた施設の構造及び設備の整備に関する基準

【し】

JOCパートナー都市協定

オリンピックムーブメントの推進と国際競技力の向上及びスポーツの振興のための各種事業の支援・協力について、平成17年(2005年)9月に公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)と広島市が締結した協定

シェイク ファハド 広島・アジア青少年スポーツ交流事業

アジアオリンピック評議会(OCA)の設立と発展を果たした初代OCA会長の「シェイク ファハド」氏の功績を讃えるとともに、平成6年(1994年)10月に開催した「第12回アジア競技大会」の栄誉を記念し広島市が設置した基金による事業

シッティングバレーボール

座って行うバレーボール。通常より狭いコートと低いネットを用いる。攻撃の際は、臀部(でんぶ)の一部が床に接する必要がある。

障害者スポーツ指導員

多様な障害者のスポーツ活動に対応するため、専門的な知識を活かし、安全にスポーツ活動の援助を行うことにより、スポーツを通じて障害者の生活の質の向上に寄与する。

①初級障害者スポーツ指導員

地域で活動する 18 歳以上の指導者で、主に初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者

②中級障害者スポーツ指導員

地域における障害者スポーツのリーダーとしての役割を持ち、指導現場では、十分な知識、技術と経験に基づいた指導ができ、指導員の模範となる者

③上級障害者スポーツ指導員

県レベルのリーダーとして、指導現場では障害者スポーツの高度な専門的知識を有し、指導技術と豊富な経験に基づいた指導と指導員を取りまとめる指導的立場になる者

新体カテスト

文部科学省が、国民の体力・運動能力の現状を明らかにすることを目的に、毎年実施している調査。体育・スポーツ活動の指導と行政上の基礎資料として広く活用されている。

・6 歳～11 歳

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20m シャトルラン、50m 走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

・12 歳～19 歳

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（又は 20m シャトルラン）、50m 走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

・20 歳～64 歳

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび、急歩（又は 20m シャトルラン）

・65 歳～79 歳

握力、上体起こし、長座対前屈、開眼片足立ち、10m 障害物歩行、6 分間歩行

【す】

スポーツイベントボランティア

Jリーグ（日本プロサッカーリーグ）やセントラル・リーグ（日本プロ野球組織セントラル・リーグ運営部）の試合など全市的なスポーツイベントの運営の補助を行う広島市スポーツ協会登録のボランティア

スポーツ障害

長期的に同じスポーツを続けることなどにより、体の一定の部位に繰り返し負担がかかって起こる障害。成人だけでなく、成長期の子どもにもよく起こる。

スポーツプログラマー

地域スポーツクラブなどにおいて心身の健康維持や体力向上のための指導・助言を行う人

スポーツツーリズム

スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そして国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すもの

【せ】

全国体力・運動能力、 運動習慣等調査

国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや、各教育委員会等が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することなどを目的とした調査（実技調査の測定方法等は、新体力テストと同様）

調査対象

〔国・公・私立学校の小学校第5学年及び中学校第2学年の全児童生徒（特別支援学校等含む）。〕

【そ】

総合型地域スポーツクラブ

複数の種目が用意され、地域住民が年齢、関心、技術などのレベルに応じて自由に参加できるスポーツクラブ。参加者は、指導者のもとで個々のニーズに応じたスポーツを行うことができる。

【た】

体力アップハンドブック

体力に関する知識や、主体的に運動に取り組む方法、新体力テスト結果の記入欄などを掲載したハンドブック。小学生が、自分の体力について関心を高めるとともに、体力向上への意欲を持つことができるようにすることを趣旨としている。

体力向上推進校

広島市教育委員会が指定した、小・中学生の体力向上を図るための効果的な取組について実践研究を行う小・中学校

体力づくりチャレンジ

「スピード長なわ跳び」、「連続8の字長なわ跳び」、「スピード8の字長なわ跳び」の3種目を設定し、跳べた回数を競うもの。小学生が、楽しみながら記録に挑戦することを通して、運動に対する意欲の高揚を図るとともに基礎的な体力を育むことができるようにすることを趣旨としている。

【ち】

地域スポーツ振興担当
コーディネーター

スポーツを通じて地域の活性化を図るため、スポーツセンターを拠点に、事業の企画立案、地域に出向いてのスポーツ指導や地域イベントの開催支援に取り組んでいる広島市スポーツ協会の職員

【と】

Doスポーツ体育指導
者招へい事業

学校にスポーツ選手や地域の競技経験者を招へいし、児童生徒への指導を通し、体を動かす楽しさや喜びを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ態度を育成することを目的とした事業

【に】

ニュースポーツ

日本において20世紀後半以降に新しく考案・紹介されたスポーツ群をいう。軽スポーツ、レクリエーションスポーツとも呼ばれている。

【ひ】

広島市立学校スポーツ
活動支援人材バンク

専門的技術・指導力を備えた地域のスポーツ経験者に、指導者として登録してもらい、小学校の体育、中学校のスポーツ活動の支援をしていくための制度

【ふ】

ふるさと選手

国民体育大会の出場に当たって、広島県内の中学校または高等学校を卒業した者は、「ふるさと選手制度」を活用し、広島県を「ふるさと」として登録することにより広島県から出場することができる。

資料編

1 スポーツに関する意識調査〔平成 21 年(2009 年)6 月〕の概要

(1) 調査の目的と種類

ア 調査の目的

この調査は、市民の運動・スポーツに関する意識や活動の実態を把握し、かつ分析することを通じて、計画づくりの基礎資料にすることを目的に実施しました。

イ 調査の種類

この調査では、以下の2種類のアンケート調査を実施しました。

- 市民アンケート調査
- 児童生徒アンケート調査

(2) 調査の実施概要と回収状況

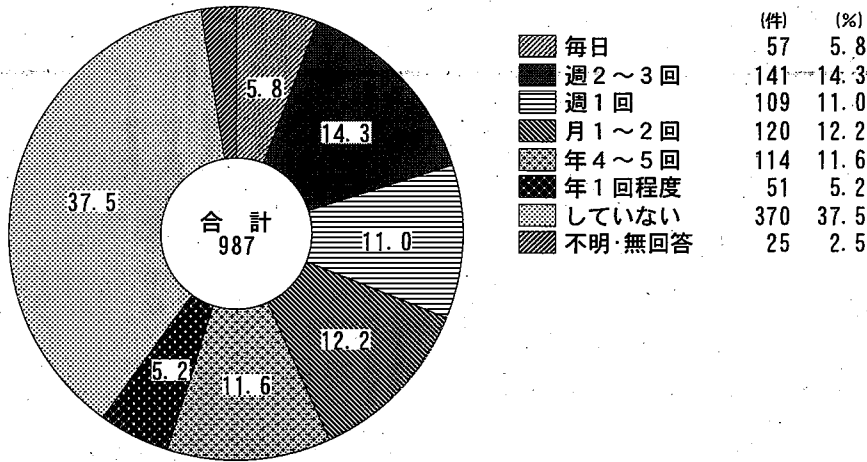
各アンケート調査の実施概要および回収率は、下表のとおりです。

区 分	市民アンケート	児童生徒アンケート
調査地域	広島市全域	広島市全域
調査対象	住民基本台帳及び外国人登録原票に登録されている20歳以上の男女	市立の小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生
配布件数	2,000件(無作為抽出)	1,040件
配布・回収方法	郵送配布・郵送回収	協力依頼した学校において配布・回収
調査期間	平成21年(2009年)5月～6月	平成21年(2009年)5月～6月
有効回収数 (回収率)	987件(49.4%)	1,033件(99.3%)

(3) 計画の本編に記載した調査結果の詳細

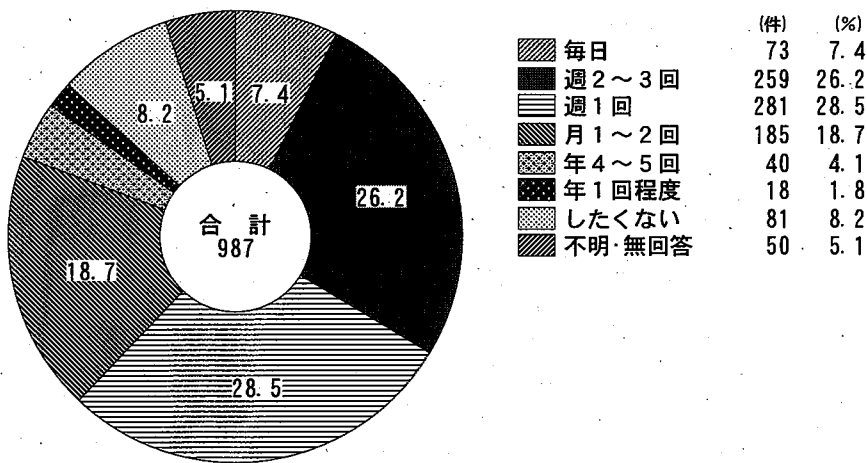
■ スポーツ実施率 (市民アンケート)

問：この1年間に運動・スポーツを何回くらい行いましたか。



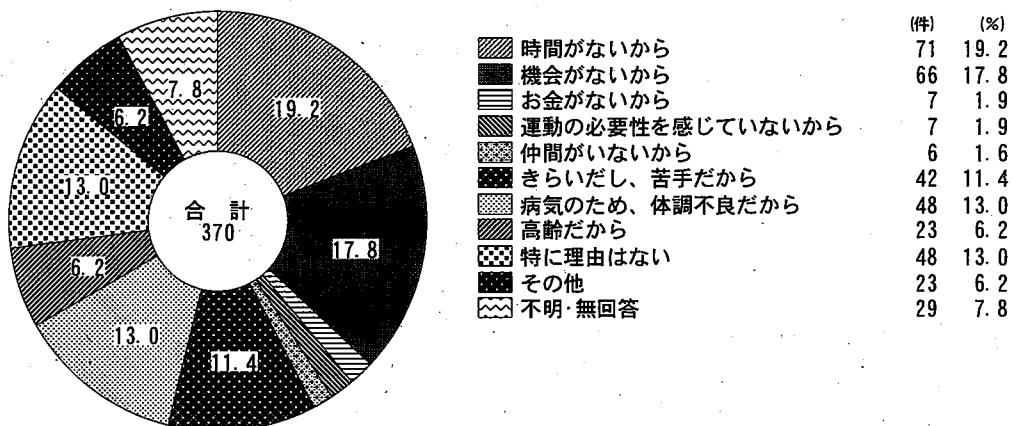
■ 今後のスポーツ活動の意向 (市民アンケート)

問：これから運動・スポーツをどの程度してみたいですか。



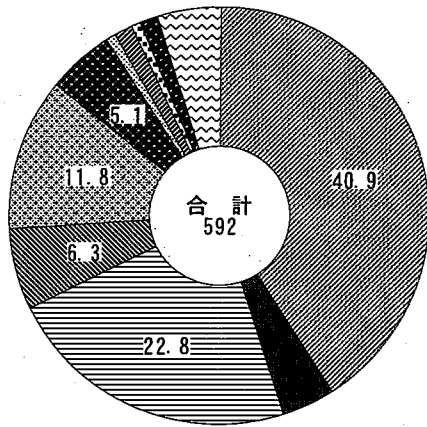
■ 運動・スポーツをしていない理由 (市民アンケート)

問：運動・スポーツをしていない理由は何ですか。



■ 運動・スポーツを行う理由・目的（市民アンケート）

問：運動・スポーツをしている理由・目的は何ですか。

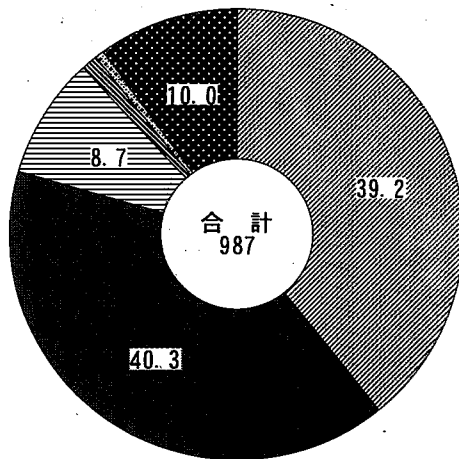


理由・目的	件数	割合 (%)
健康・体力づくりのため	242	40.9
家族とのふれあいのため	24	4.1
楽しみ・気晴らしのため	135	22.8
友人・仲間との交流のため	37	6.3
運動不足を感じるから	70	11.8
美容や肥満解消のため	30	5.1
精神の修養や訓練のため	5	0.8
自己の記録や能力を向上させるため	8	1.4
特に理由はない	4	0.7
その他	8	1.4
不明・無回答	29	4.9

■ これからの広島市のスポーツ振興の在り方（市民アンケート）

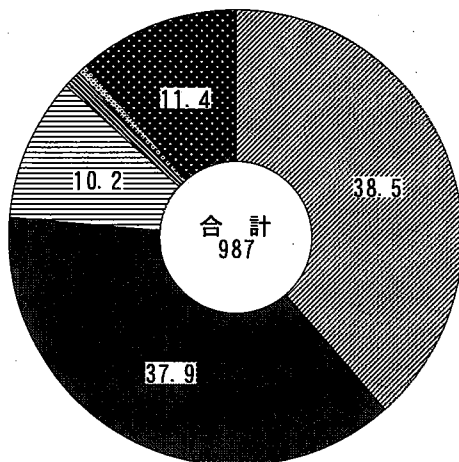
問：これからの広島市のスポーツ振興の在り方について、次の①～⑩のそれぞれに関し、どの程度大切であると考えていますか。

① 高齢者、障害者が参加しやすいスポーツ環境の整備



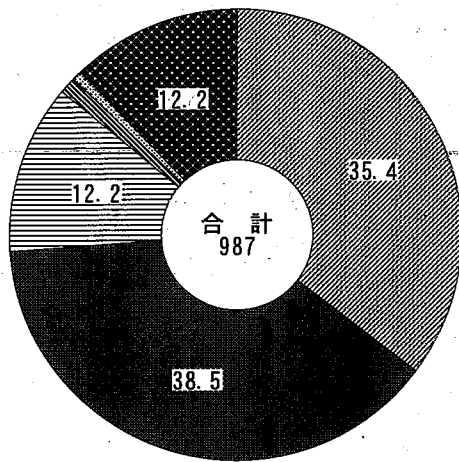
回答	件数	割合 (%)
非常に大切	387	39.2
まあ大切	398	40.3
どちらでもない	86	8.7
あまり大切でない	11	1.1
全く大切でない	6	0.6
不明・無回答	99	10.0

② 地域スポーツクラブの育成など、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくり



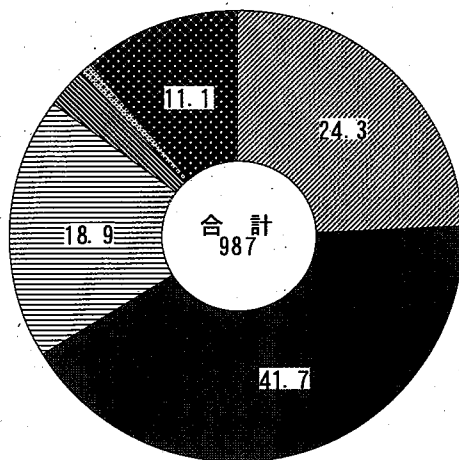
回答	件数	割合 (%)
非常に大切	380	38.5
まあ大切	374	37.9
どちらでもない	101	10.2
あまり大切でない	12	1.2
全く大切でない	7	0.7
不明・無回答	113	11.4

③ 運動・スポーツ施設の整備、充実と有効活用



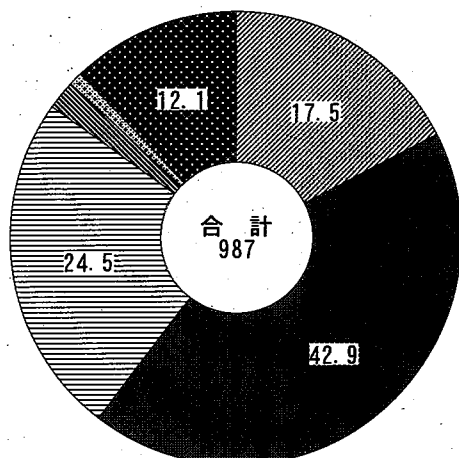
	(件)	(%)
非常に大切	349	35.4
まあ大切	380	38.5
どちらでもない	120	12.2
あまり大切でない	11	1.1
全く大切でない	7	0.7
不明・無回答	120	12.2

④ 市民が気軽に参加できるイベントの増加、内容の充実



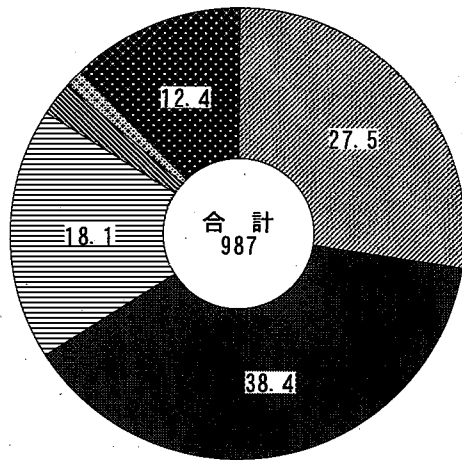
	(件)	(%)
非常に大切	240	24.3
まあ大切	412	41.7
どちらでもない	187	18.9
あまり大切でない	29	2.9
全く大切でない	9	0.9
不明・無回答	110	11.1

⑤ スポーツイベントボランティアの育成、支援



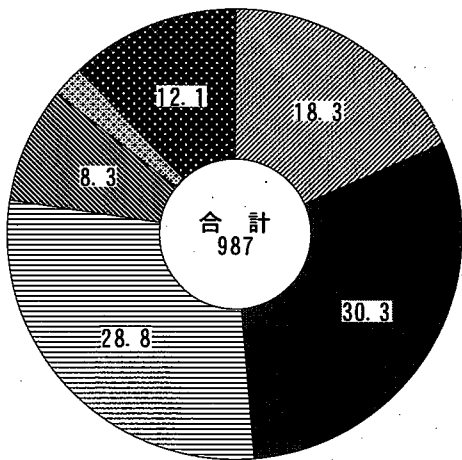
	(件)	(%)
非常に大切	173	17.5
まあ大切	423	42.9
どちらでもない	242	24.5
あまり大切でない	21	2.1
全く大切でない	9	0.9
不明・無回答	119	12.1

⑥ スポーツ競技力の向上



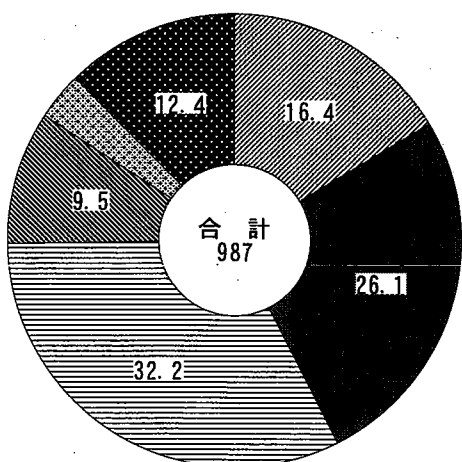
	(件)	(%)
非常に大切	271	27.5
まあ大切	379	38.4
どちらでもない	179	18.1
あまり大切でない	24	2.4
全く大切でない	12	1.2
不明・無回答	122	12.4

⑦ 国際スポーツ大会などの開催・誘致



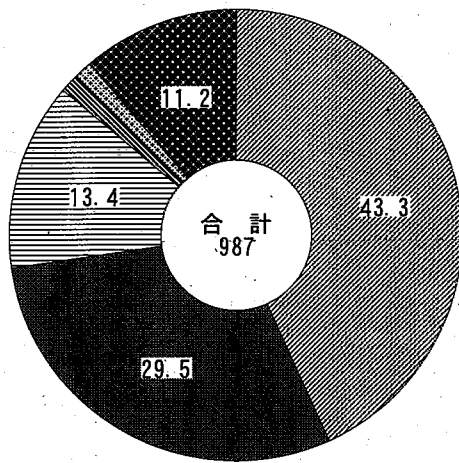
	(件)	(%)
非常に大切	181	18.3
まあ大切	299	30.3
どちらでもない	284	28.8
あまり大切でない	82	8.3
全く大切でない	22	2.2
不明・無回答	119	12.1

⑧ 日本代表チームなどの合宿の誘致



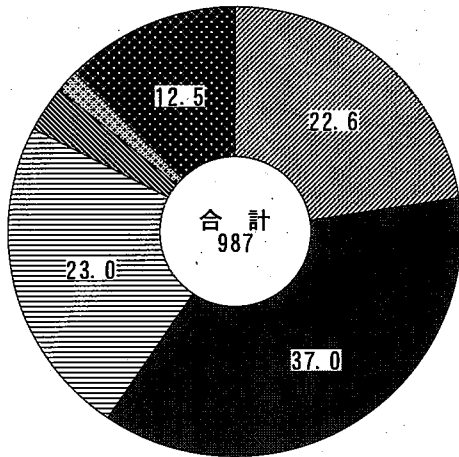
	(件)	(%)
非常に大切	162	16.4
まあ大切	258	26.1
どちらでもない	318	32.2
あまり大切でない	94	9.5
全く大切でない	33	3.3
不明・無回答	122	12.4

⑨ プロスポーツ（広島東洋カープ、サンフレッチェ広島）の振興



	(件)	(%)
非常に大切	427	43.3
まあ大切	291	29.5
どちらでもない	132	13.4
あまり大切でない	13	1.3
全く大切でない	13	1.3
不明・無回答	111	11.2

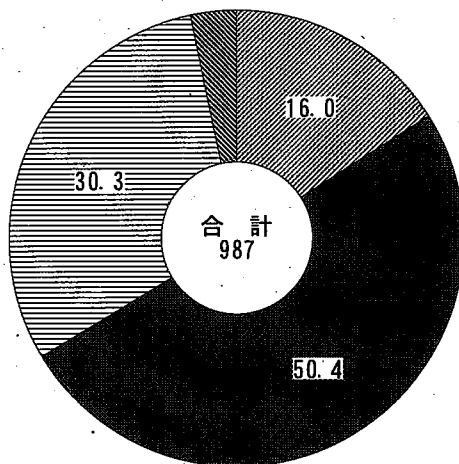
⑩ JTサンダースなどトップレベルのアマチュアスポーツの振興



	(件)	(%)
非常に大切	223	22.6
まあ大切	365	37.0
どちらでもない	227	23.0
あまり大切でない	33	3.3
全く大切でない	16	1.6
不明・無回答	123	12.5

■ 運動・スポーツを行う形態（市民アンケート）

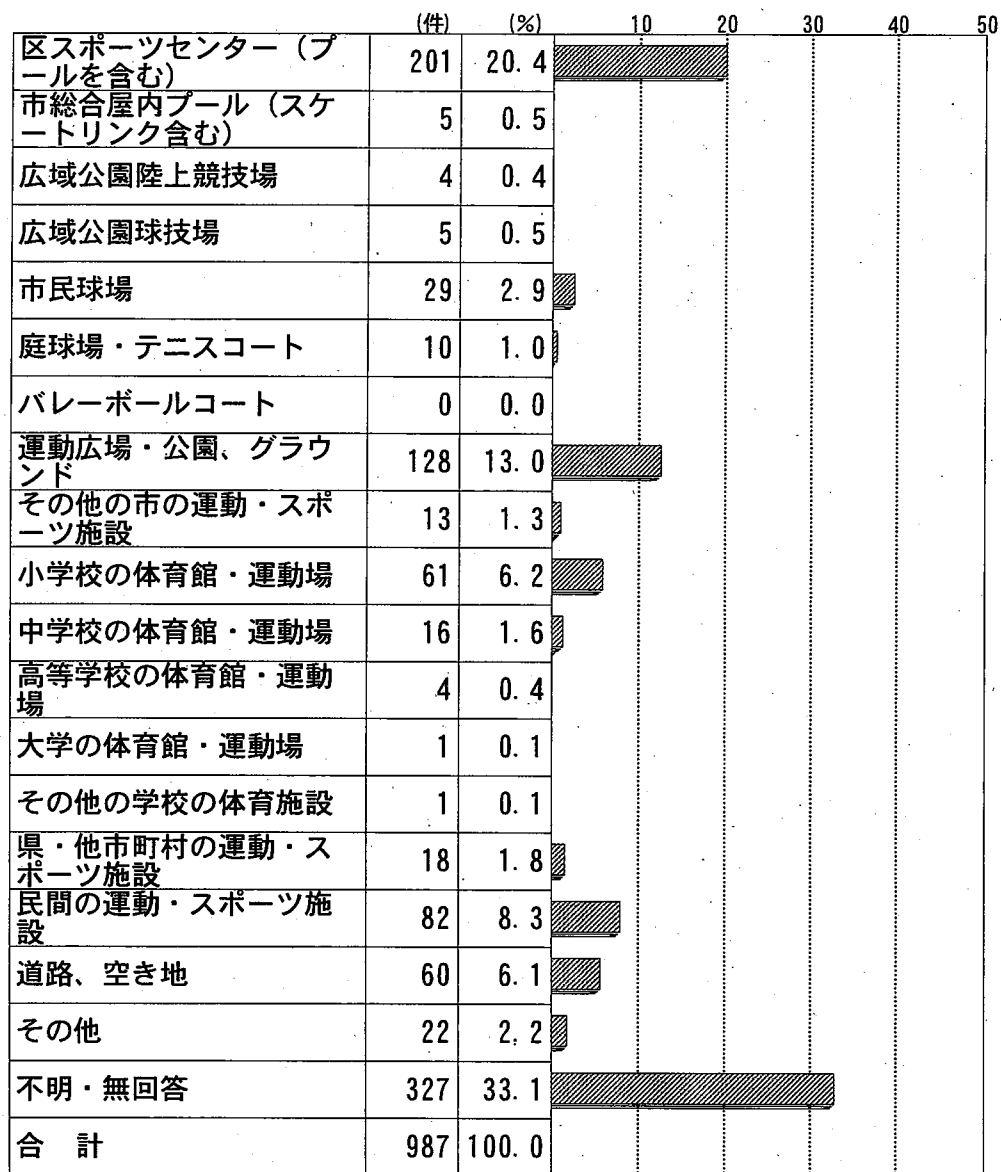
問：運動・スポーツをどういう形態でやりたいですか。



	(件)	(%)
一人でやりたい	158	16.0
みんなとやりたい	497	50.4
どちらでもよい	299	30.3
不明・無回答	33	3.3

■ よく利用するスポーツ施設（市民アンケート）

問：運動・スポーツ施設について、よく利用する施設は何ですか。



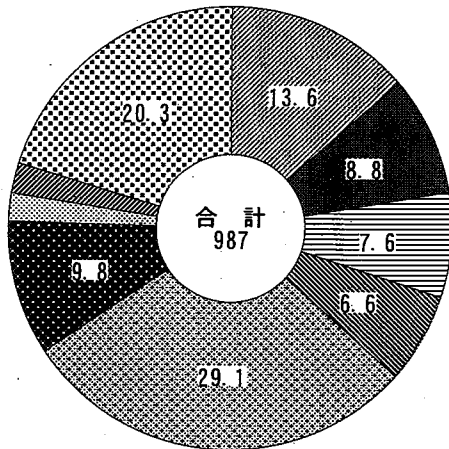
■ 今後利用したいスポーツ施設（市民アンケート）

問：運動・スポーツ施設について、今後利用したい施設は何ですか。

	(件)	(%)	10	20	30	40	50
区スポーツセンター（プールを含む）	266	27.0					
市総合屋内プール（スケートリンク含む）	31	3.1					
広域公園陸上競技場	11	1.1					
広域公園球技場	15	1.5					
市民球場	69	7.0					
庭球場・テニスコート	14	1.4					
バレーボールコート	8	0.8					
運動広場・公園、グラウンド	63	6.4					
その他の市の運動・スポーツ施設	15	1.5					
小学校の体育館・運動場	46	4.7					
中学校の体育館・運動場	9	0.9					
高等学校の体育館・運動場	6	0.6					
大学の体育館・運動場	2	0.2					
その他の学校の体育施設	1	0.1					
県・他市町村の運動・スポーツ施設	63	6.4					
民間の運動・スポーツ施設	54	5.5					
道路、空き地	16	1.6					
その他	16	1.6					
不明・無回答	282	28.6					
合計	987	100.0					

■ 運動・スポーツをする場合に解決してほしいこと（市民アンケート）

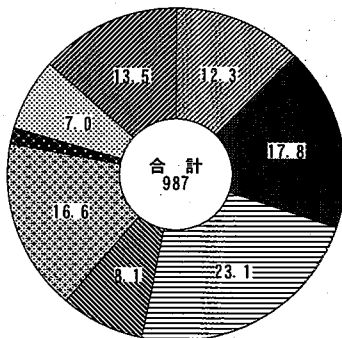
問：運動・スポーツをする場合に、現在困っていることで解決してほしいと思うことは何ですか。



	(件)	(%)
参加しやすいプログラムや大会	134	13.6
教えてくれる人や世話をしてくれる人	87	8.8
一緒にやる仲間やグループ	75	7.6
運動・スポーツに関する情報・知識	65	6.6
使いやすい施設や場所	287	29.1
運動・スポーツにかかる費用	97	9.8
スポーツ組織や行政の在り方	20	2.0
その他	22	2.2
不明・無回答	200	20.3

■ 学校や地域の運動・スポーツクラブに必要なもの（市民アンケート）

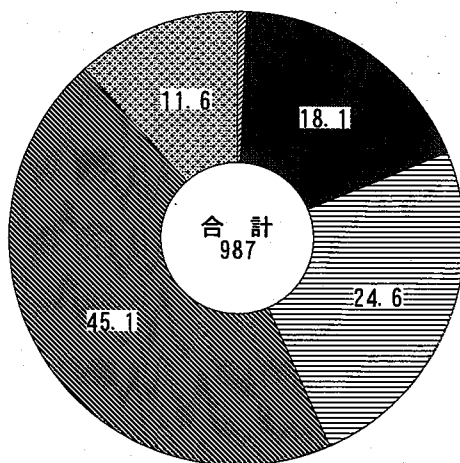
問：これからの学校や地域の運動・スポーツのクラブの在り方について、最も必要だと思うものは何ですか。



	(件)	(%)
学校の先生や地域のリーダーが自由に指導できるクラブ	121	12.3
児童生徒や大人と一緒に活動できるクラブ	176	17.8
いろいろな種目や楽しみのあるクラブ	228	23.1
男性、女性がともに活動できるクラブ	80	8.1
学校や地域の枠を越えて広い範囲の人が活動できるクラブ	164	16.6
行事やプログラムを自らづくり、運営するクラブ	16	1.6
トップレベルの選手や初心者のメンバーと一緒に活動できるクラブ	69	7.0
不明・無回答	133	13.5

■ スポーツ推進委員の認知度（市民アンケート）

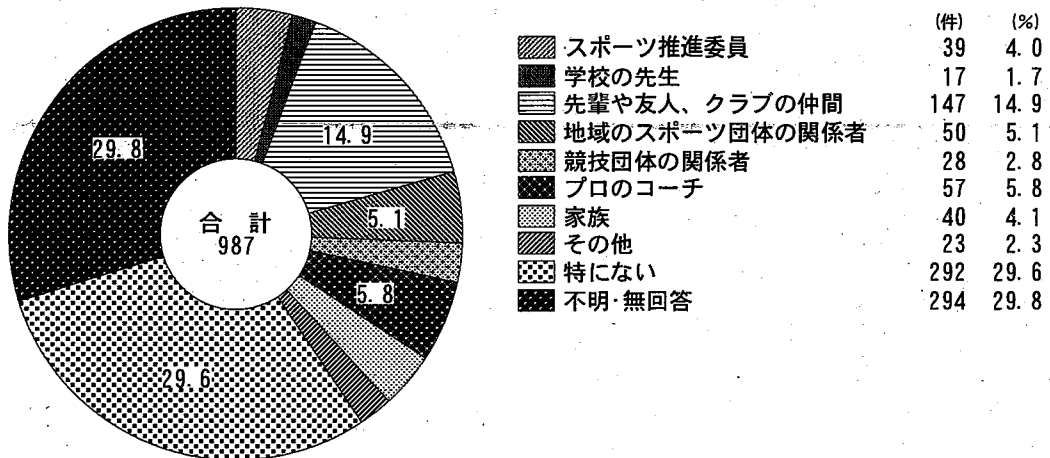
問：スポーツ推進委員について、どの程度知っていますか。



	(件)	(%)
関わっている	6	0.6
知っている	179	18.1
聞いたことがある	243	24.6
知らない	445	45.1
不明・無回答	114	11.6

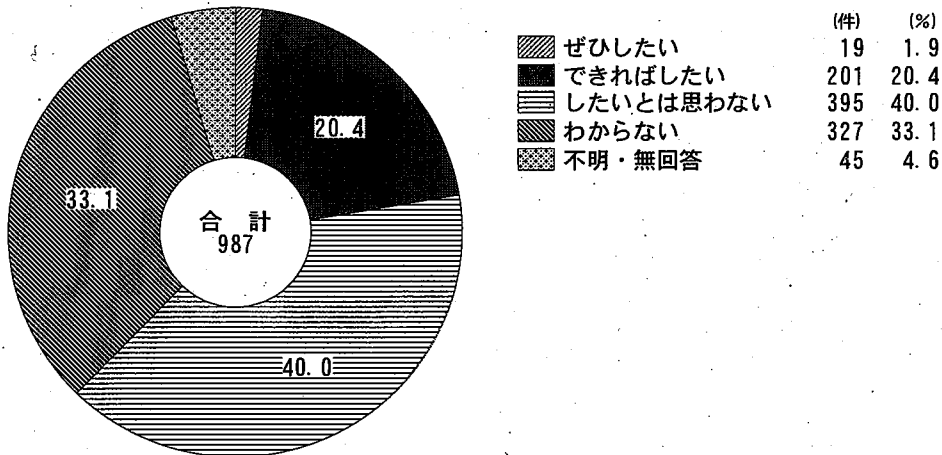
■ 運動・スポーツの指導をしてもらうことが多い人（市民アンケート）

問：ふだんどのような人に運動・スポーツの指導をしてもらうことが最も多いですか。



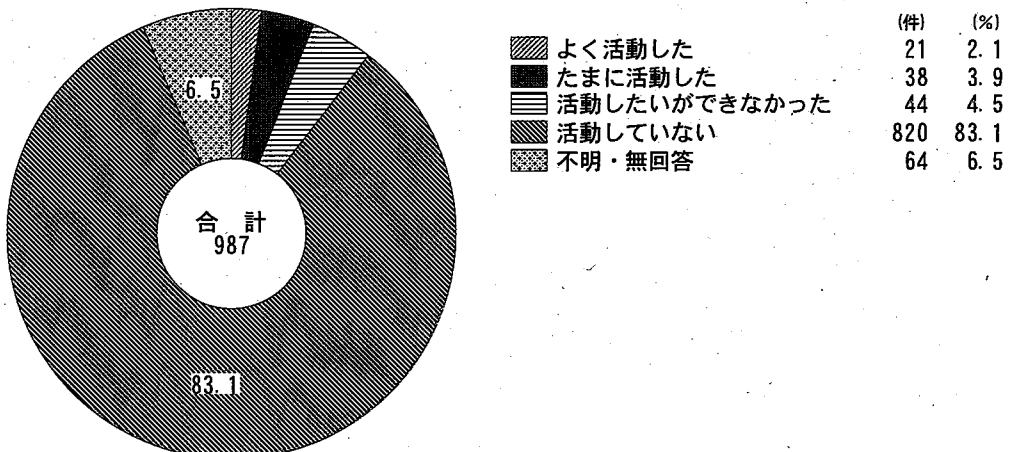
■ 今後の運動・スポーツに関するボランティア活動の意向（市民アンケート）

問：今後、運動・スポーツに関わるボランティア活動をしてみたいと思いますか。



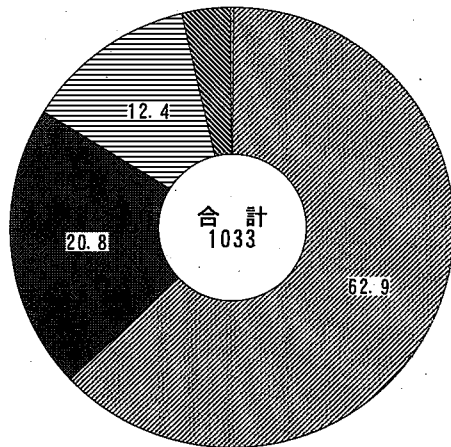
■ 運動・スポーツに関するボランティア活動の実施率（市民アンケート）

問：この1年間に運動・スポーツの指導やイベントへの協力など運動・スポーツに関わるボランティア活動をしたことがありますか。



■ 運動・スポーツへの関心（児童生徒アンケート）

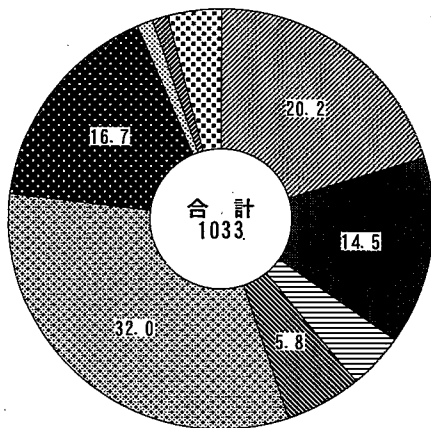
問：運動・スポーツをすることやみることが好きですか。



	(件)	(%)
するのともみるのとも好き	650	62.9
するのが好き	215	20.8
みるのが好き	128	12.4
するのともみるのとも好きではない	38	3.7
不明・無回答	2	0.2

■ 運動・スポーツに関して求める情報（児童生徒アンケート）

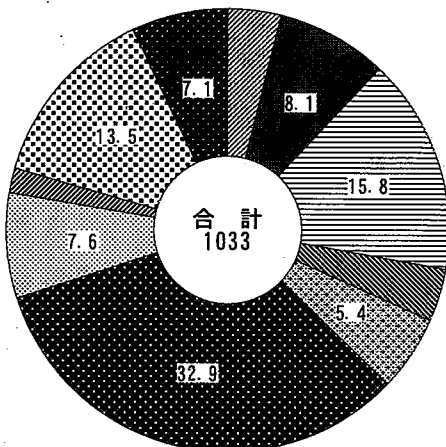
問：運動・スポーツに関することについて、どのようなことをいちばん知りたいですか。



	(件)	(%)
運動・スポーツの大会・イベントのこと	209	20.2
運動・スポーツのクラブのこと	150	14.5
運動・スポーツ施設（利用状況など）のこと	44	4.3
運動・スポーツを指導してくれる人のこと	60	5.8
競技のルールや練習方法	331	32.0
体力・健康づくりの方法	172	16.7
ボランティア活動のこと	12	1.2
その他	13	1.3
不明・無回答	42	4.1

■ スポーツの指導をしてもらいたい人（児童生徒アンケート）

問：学校の体育の授業を除いて、運動・スポーツをこれから教えてもらおうとしたら、どんな人にいちばん教えてもらいたいですか。

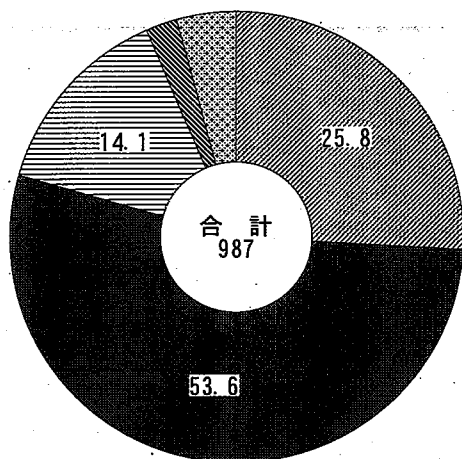


	(件)	(%)
スポーツ推進委員	40	3.9
学校の先生	84	8.1
先輩や友人、クラブの仲間	163	15.8
地域のスポーツ団体の人	40	3.9
競技団体の人	56	5.4
プロのコーチ	340	32.9
家族	79	7.6
その他	19	1.8
特にない	139	13.5
不明・無回答	73	7.1

■ スポーツ競技の国際大会への関心

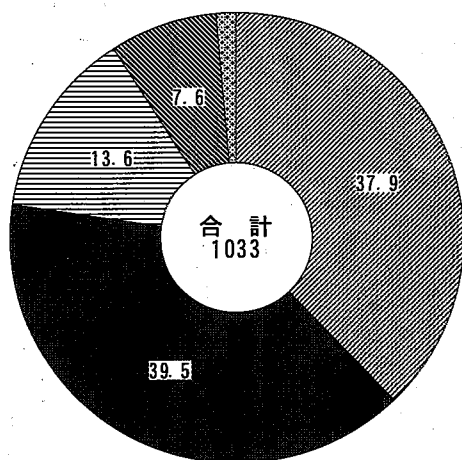
問：オリンピックなどスポーツ競技の国際大会に関心がありますか。

(市民アンケート)



	(件)	(%)
非常に興味がある	255	25.8
やや興味がある	529	53.6
あまり興味がない	139	14.1
全く興味がない	23	2.3
不明・無回答	41	4.2

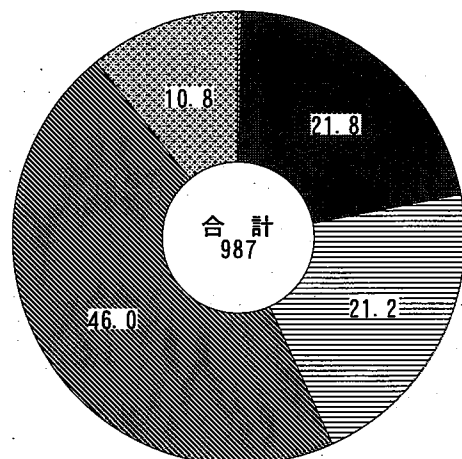
(児童生徒アンケート)



	(件)	(%)
すごく興味がある	391	37.9
まあ興味がある	408	39.5
あまり興味がない	140	13.6
まったく興味がない	79	7.6
不明・無回答	15	1.5

■ トップス広島の認知度 (市民アンケート)

問：トップス広島について、どの程度知っていますか。



	(件)	(%)
関わっている	2	0.2
知っている	215	21.8
聞いたことがある	209	21.2
知らない	454	46.0
不明・無回答	107	10.8

2 「第2章 計画策定の背景」掲載の表及び図（抜粋）の時点修正

表2 年齢階層別人口

区 分		平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)
年少人口	0～14歳	16.8万人 (14.3%)	15.5万人 (13.1%)
生産年齢人口	15～64歳	76.9万人 (65.5%)	71.0万人 (59.9%)
老年人口	65歳以上	23.7万人 (20.2%)	32.0万人 (27.0%)
総人口		117.4万人 (100.0%)	118.6万人 (100.0%)

注1 平成25年(2013年)3月1日の推計です。

注2 ()内の数値は構成比です。

表3 広島市所管のスポーツ施設（平成27年(2015年)4月現在）

区 分	スポーツ施設	公園内のスポーツ施設	その他	計
グラウンド・運動場	・戸坂運動広場等 (24箇所)	・竜王公園等(36箇所)		60箇所
野球場	・広島市民球場	・寺迫公園野球場等 (5箇所)		6箇所
陸上競技場		・広域公園陸上競技場 ・同 補助競技場		2箇所
球技場	・中央バレーボール場	・広域公園第一球技場 ・同 第二球技場		3箇所
テニスコート	・中央庭球場等(11箇所)	・広域公園テニスコート 等(35箇所)		46箇所
体育館	・スポーツセンター体育室 (10箇所) ・吉島体育館等(3箇所)	・瀬野川運動公園体育室	・心身障害者福祉 センター体育室	15箇所
プール	・総合屋内プール ・スポーツセンタープール (9箇所)	・中央公園ファミリープ ール	・心身障害者福祉 センタープール	12箇所
柔剣道場	・スポーツセンター (2箇所)			2箇所
弓道場	・スポーツセンター			1箇所
トレーニング室	・スポーツセンター(9箇所) ・クアハウス湯の山トレー ニングルーム			10箇所
クアハウス	・クアハウス湯の山			1箇所

表4 スポーツセンター及び総合屋内プール（広島ビッグウェーブ）の利用者数
（平成26年度(2014年度)）

区 分	目標数値 (A)	実績数値 (B)	差引 (B-A)	達成率 (B÷A)
スポーツセンター	1,900,000人	1,801,021人	▲98,979人	94.8%
総合屋内プール (広島ビッグウェーブ)	158,000人	131,681人	▲26,319人	83.3%
計	2,058,000人	1,932,702人	▲125,298人	93.9%

注1 スポーツセンターの数値は、本館（8箇所）と分館（5箇所）の合計です。

注2 総合屋内プールについて、冬季はスケートリンクとして開館しています。

表5 学区体育協会の活動状況（平成25年度(2013年度)）

団体数		137団体
活動内容	クラブ・同好会活動	バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール、グラウンドゴルフ、ソフトバレーボール、ソフトテニス、ゲートボール、剣道 ほか
	スポーツ・レクリエーション行事等開催	町民体育祭・運動会、各種球技大会 ほか
	スポーツイベントへの協力	スポーツ・レクリエーションフェスティバル、区民スポーツ大会、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 ほか
住民参加状況		クラブ・同好会加入率 2.8% (クラブ・同好会加入者数の全学区合計÷広島市人口) 主催行事参加率 16.9% (延べ主催行事参加者数の全学区合計÷広島市人口) ※広島市人口は、平成26年(2014年)3月末現在である。

資料) 平成25年度学区体育団体スポーツ振興事業実績報告書

表6 スポーツ推進委員の活動状況（平成26年度(2014年度)）

1か月の平均活動日数	人数(割合)
15日以上(週3回以上)	19人(5.0%)
10日～14日(週2回以上)	54人(14.2%)
5日～9日(週1回以上)	158人(41.6%)
0日～4日	149人(39.2%)
計	380人(100.0%)

表7 *新体力テストの結果において、平成26年度(2014年度)の広島市の平均値が平成25年度(2013年度)の全国の値以上となった種目の割合(男女計)

	年齢(学年)	割合(種目数)		年齢(学年)	割合(種目数)
市立小学校	6歳(1年生)	56.3%(9/16種目)	市立中学校	12歳(1年生)	50.0%(9/18種目)
	7歳(2年生)	43.8%(7/16種目)		13歳(2年生)	44.4%(8/18種目)
	8歳(3年生)	43.8%(7/16種目)		14歳(3年生)	44.4%(8/18種目)
	9歳(4年生)	62.5%(10/16種目)		計	46.3%(25/54種目)
	10歳(5年生)	62.5%(10/16種目)	市立高等学校	15歳(1年生)	55.6%(10/18種目)
	11歳(6年生)	75.0%(12/16種目)		16歳(2年生)	66.7%(12/18種目)
計	57.3%(55/96種目)	17歳(3年生)		72.2%(13/18種目)	
			計	64.8%(35/54種目)	

表 8 最近 5 年間の国民体育大会における広島県の順位と広島市選手の割合の推移

区 分	平成 22 年 (2010 年)	平成 23 年 (2011 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 25 年 (2013 年)	平成 26 年 (2014 年)	平均
総合の部	12 位	9 位	12 位	15 位	18 位	
成年の部	9 位	7 位	7 位	9 位	21 位	
少年の部	19 位	11 位	27 位	30 位	19 位	
広島市選手の割合	41.1%	40.5%	48.0%	45.9%	47.9%	44.9%

表 9 主な国際的・全国的なスポーツ大会の開催状況

区分	国際大会		全国大会	
	総合大会	競技大会	総合大会	競技大会
平成 22 年度 (2010 年度)				<ul style="list-style-type: none"> ■全日本シングルスソフトテニス選手権大会 ■全国少年少女レスリング選手権大会 ■全日本社会人バドミントン選手権大会 ■全日本総合ハンドボール選手権大会【女子】 ■全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会
平成 23 年度 (2011 年度)		●FIVB ワールドカップ 2011 【女子】		<ul style="list-style-type: none"> ■全日本フットベースボール大会 ■男女ジャパンオープン・ジャパンミックスドペアボディビル選手権 ■全日本歯科学学生総合体育大会(水泳部門) ■全国ろう高齢者ゲートボール競技大会 ■全国ろう高齢者グランドゴルフ大会 ■全国高等学校選抜バドミントン大会
平成 24 年度 (2012 年度)				<ul style="list-style-type: none"> ■ALL JAPAN 3on3 BASKETBALL (JBA33) 2012 in HIROSHIMA ■第 20 回全国中学生空手道選手権大会 ■高松宮賜杯第 56 回全日本軟式野球大会(2 部) ■第 30 回ソフトテニス日本リーグ ■ウィンターカップ 2012 平成 24 年度第 43 回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会 ■第 25 回卓球アジアカップ
平成 25 年度 (2013 年度)				<ul style="list-style-type: none"> ■平成 25 年度第 10 回全国小学生学年別柔道大会 ■第 89 回日本学生選手権水泳競技大会 ■第 31 回ソフトテニス日本リーグ
平成 26 年度 (2014 年度)				<ul style="list-style-type: none"> ■第 45 回全日本教職員弓道選手権大会 ■第 32 回ソフトテニス日本リーグ ■2014 年度第 75 回全日本女子ホッケー選手権大会
毎年度開催	<ul style="list-style-type: none"> ●織田幹雄記念国際陸上競技大会 ●ヒロシマ国際ハンドボール大会 ●アジアカップひろしま国際ソフトテニス大会 ●ひろしま国際平和マラソン ●Peace Cup 国際交流車いすテニス大会 		<ul style="list-style-type: none"> ■天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会(ひろしま男子駅伝) ■JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアソフトテニス選手権大会 ■JABA広島大会(野球) ■全日本OP級チームレース選手権大会 	

表 10 政令指定都市のプロスポーツチームや企業スポーツチーム等の状況
(平成 27 年(2015 年) 4 月 1 日現在)

区分	「トップス広島」加盟チームが参加するリーグ等								その他
	プロ野球	サッカー Jリーグ	バレーボール Vプレミアリーグ	日本ハンドボ ールリーグ	バドミントン 日本リーグ	ホッケー 日本リーグ	ソフトテニス 日本リーグ	全国実業団 対抗駅伝	
札幌市	北海道日本 ハムファイターズ	コンサドーレ札幌			JR北海道			ホクレン	レバンガ北海道(バスケット) JR北海道(卓球)
仙台市	東北楽天ゴールデンイーグルス	ベガルタ仙台			東北マークス 七十七銀行				仙台 89ERS(バスケット)
さいたま市		浦和レッドダイヤ モンス 大宮アルディージャ						しまむら	埼玉ブロンコス(バスケット)
千葉市	千葉ロッテ マリーンズ	ジェフユナイテ ッド市原・千葉						富士通	
横浜市	横浜DeNA ベイスターズ	横浜F・マリノス 横浜FC Y・S・C・C横浜			日立情報通信工 エンジニアリング			パナソニック	横浜ビー・コルセアーズ(バスケット)
川崎市		川崎フロンター レ	NECレッドロケ ッツ						東芝プレイブサンダース(バス ケット) 富士通レッドウェーブ(バス ケット) 信号器材(卓球) 東信電気(卓球)
相模原市		SC相模原							
新潟市		アルビレックス 新潟						重川材木店	新潟アルビレックス BB(バス ケット) 新潟アルビレックス BB ラビッツ (バスケット)
静岡市		清水エスパルス							シャンソン化粧品シャンソンV マジック(バスケット)
浜松市								ユタカ技研	浜松・東三河フェニックス(バス ケット)
名古屋市	中日ドラゴ ンズ	名古屋グランパ スエイト		大同特殊鋼 HC名古屋		名古屋フラ ーテル	東邦ガス	中央発條 トーエネック	三菱電機ダイヤモンドドルフ ィンズ(バスケット) トヨタ自動車アンテロープス(バ スケット) 三菱電機コアラーズ(バス ケット)
京都市		京都サンガF. C.			三菱自動車京都			京都市役所	SDホールデ ィングスグループ ワコール 京都ハンナリーズ(バスケット)
大阪市	オリックス・ バファローズ	セレッソ大阪						大阪ガス 住友電工	NTTDコモレドハリケーンズ (ラグビー) 日本生命(卓球) 大阪エヴェッサ(バスケット)
堺市			堺プレイザーズ						
神戸市		ヴィッセル神戸						ノーリツ シスメックス	神戸製鋼コベルコスティーラ ーズ(ラグビー) 兵庫ストークス(バスケット) TTSタカハシ(卓球) 神戸松蔭女子学院大学(卓球)
岡山市		ファジアーノ岡 山	岡山シーガルズ					天満屋	
北九州市		ギラヴァンツ北 九州						安川電機 黒崎播磨 TOTO	
福岡市	福岡ソフト バンクホー クス	アビスパ福岡						九電工	九州電力キューデンヴォルテク ス(ラグビー) コカ・コーラウエストレッドス パークス(ラグビー) ライジング福岡(バスケット)
熊本市		ロアッソ熊本						肥後銀行	熊本ヴォルターズ(バスケット)

下線：トップス広島に加盟しているチーム

※ 本拠地は安芸高田市ですが、トップス広島に加盟しており、広島市でも毎年日本リーグ公式戦が行われることから掲載しています。

図2 広島東洋カープ、サンフレッチェ広島の1試合あたり平均観戦者数の推移
(市内開催の公式戦における平均観戦者数)

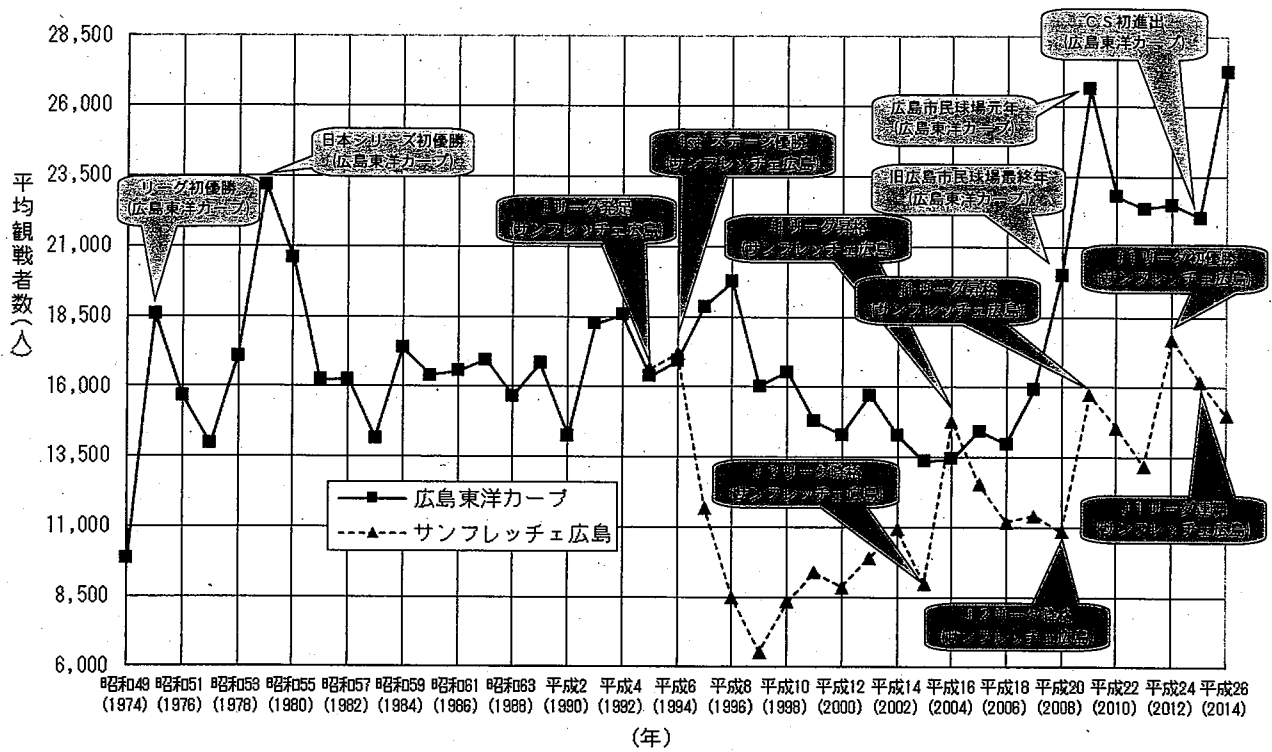


表11 トップス広島(広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、中国電力陸上競技部を除く)の1試合あたり平均観戦者数の推移(日本リーグの市内開催試合における平均観戦者数)

区 分	平均観戦者数(人)				
	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)	平成25年度 (2013年度)	平成26年度 (2014年度)
J Tサンダーズ	2,790	3,440	3,350	5,000	5,400
湧永製薬ハンドボール部	737	799	716	789	759
広島メイプルレッズ	609	567	599	722	621
広島ガスバドミントン部	※ -	※ -	※ -	860	2,000
NTT西日本広島ソフトテニスクラブ	766	833	1,000	700	1,000
コカ・コーラウエストレッドスパークスホッケー部	790	769	649	398	334

※ 日本リーグの市内開催試合なし

3 広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

(1) 委員

(五十音順、敬称略)

氏名	所属等
小笠 喜徳	株式会社中国新聞社編集局運動部長
梶原 伸之	公益財団法人広島市スポーツ協会専務理事
鎌田 春菜	中国電力女子卓球部選手
菊田 健一	広島ガスバドミントン部監督
小清水 千春	市民委員（公募）
小林 富夫	広島市小学生体育連盟会長
崎田 嘉寛	市民委員（公募）
下岡 里英	広島女学院大学人間生活学部教授
田川 章	鯉城ふれあいクラブ会長代行
鍋島 一仁	特定非営利活動法人ひろしまレクリエーション協会会長
○仁方越 久善	広島市スポーツ推進委員協議会会長
西野 倫代	社会福祉法人広島市社会福祉事業団広島市中心身障害者福祉センター指導員
◎東川 安雄	広島大学大学院教育学研究科教授
日高 一傑	一般社団法人広島青年会議所副理事長
古川 孝義	広島市学区体育団体連合会会長
本川 清	広島市スポーツ少年団本部長
満田 チエ子	公益財団法人広島市老人クラブ連合会副会長
山下 仁	特定非営利活動法人広島トップスポーツクラブネットワーク理事長
山本 千草	特定非営利活動法人広島女子スポーツクラブ（広島メイプルレッズ）職員
要田 豊	公益財団法人広島観光コンベンションビューロー常務理事（事）企画総務部長

◎：会長 ○：副会長 下線：広島市スポーツ振興計画見直し検討部会委員

(2) オブザーバー

(敬称略)

氏名	所属等
宮原 正則	広島市立古市小学校長（広島市小学校教育研究会体育部会長）
上村 桂司	広島市立翠町中学校長（広島市中学校体育連盟会長）
藤岡 哲	広島市立沼田高等学校長（広島県高等学校体育連盟副会長）

※ 平成27年(2015年)6月3日時点のものです。